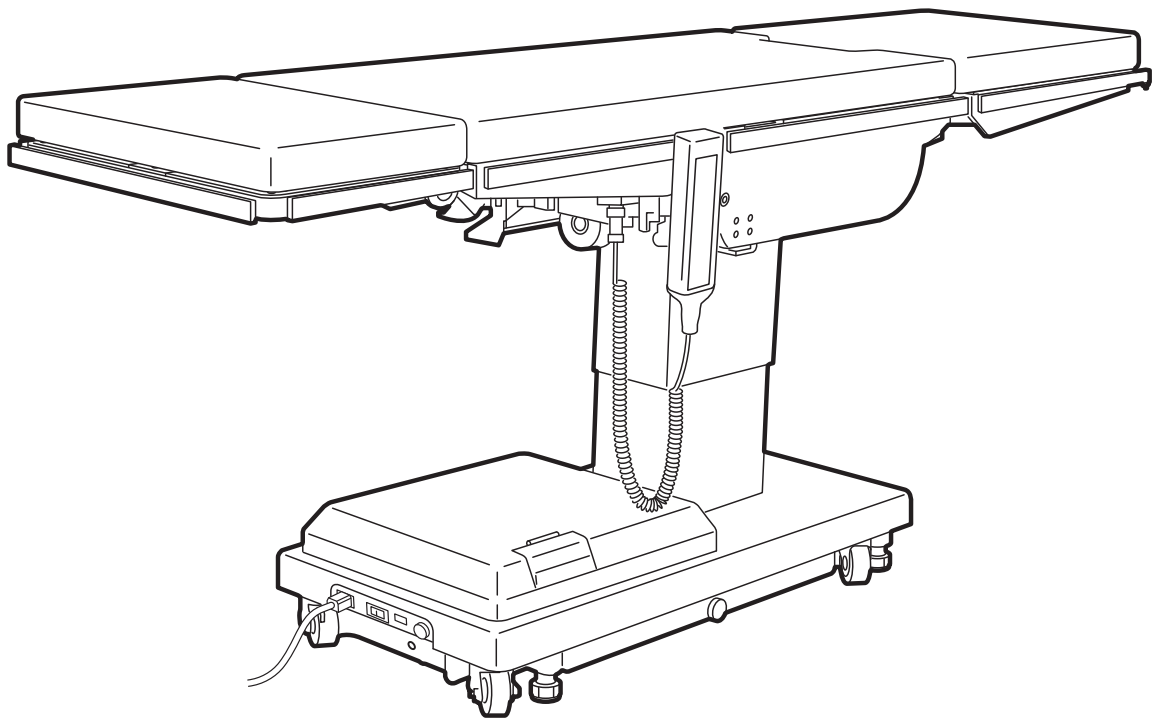




電動油圧手術台 取扱説明書

MOT-3602



手術台は手術を目的として設計されています。手術以外の目的で使用すると重大な事故を起こすおそれがあります。

操作や保守を行う者は必ず添付文書および本書を読んで内容を理解してください。

添付文書および本書は、この手術台に関わる者の参考のために適切な収納場所に保管して、必要なときに読めるようにしてください。

目次

1 章 はじめに	1
2 章 保証について	5
3 章 お使いになる前に	7
4 章 各部の名称	15
5 章 操作方法	19
設置と充電	20
電源の入れ方／切り方	25
緊急停止するには	27
手術台の固定と解除	28
ブレーキを解除する	29
テーブルトップを横に傾ける（横転）	30
テーブルトップを縦に傾ける（縦転）	31
背板を傾ける	32
テーブルトップの高さを変える	33
テーブルトップをスライドさせる	34
脚板を傾ける	36
フレックス	38
挙上器の高さを変える	39
ビーチチェア	40
自動水平復帰	41
頭部板の調整	42
背板の調整	44
脚板の調整	47
6 章 保守と点検	49
7 章 仕様	53
8 章 操作ボックスが使えないときは？	57
手術台を操作する	58
9 章 修理を依頼する前に	59
付録	63

1 はじめに

2 保証について

3 お使いになる前に

4 各部の名称

5 操作方法

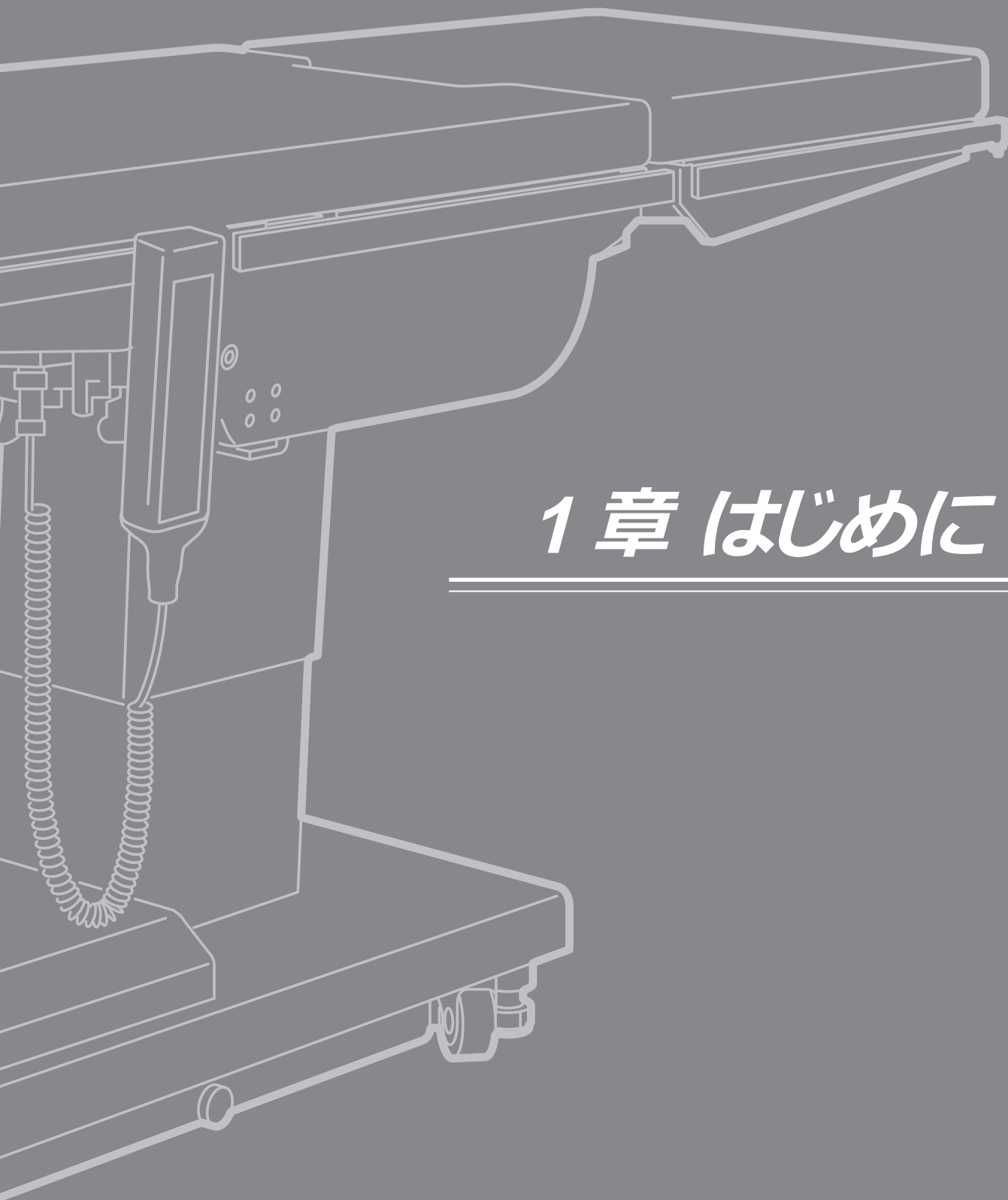
6 保守と点検

7 仕様

8 操作ボックスが
使えないときは？

9 修理を依頼する前に

1 章 はじめに



はじめに

■ 本書について

本書は、本機を安全に、効果的にご使用いただくための取扱説明書です。

本機をご使用いただく前に、必ず本書を読み、操作・点検事項を十分理解されてから使用してください。

本書に従わなかった場合、重大な事故に結びつくことがあります。

本書の警告および注意内容、または本機に貼り付けた警告および注意内容を理解していただくため、安全のための情報を次のように使い分けています。



警告

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

補足

この表示は、製品の機能について補足事項を示しています。

本書に記載されている操作・点検に関する注意事項は、本機を手術の目的に使用する場合に関するものです。

手術以外の目的に使用する場合、および本書に記載されていない操作・点検を行う場合の安全については、すべて使用者側の責任となります。

■ 本機について

本機は、手術が必要な患者を乗せて手術をするテーブルです。

本機は外科手術において、患者を支持することを目的としています。

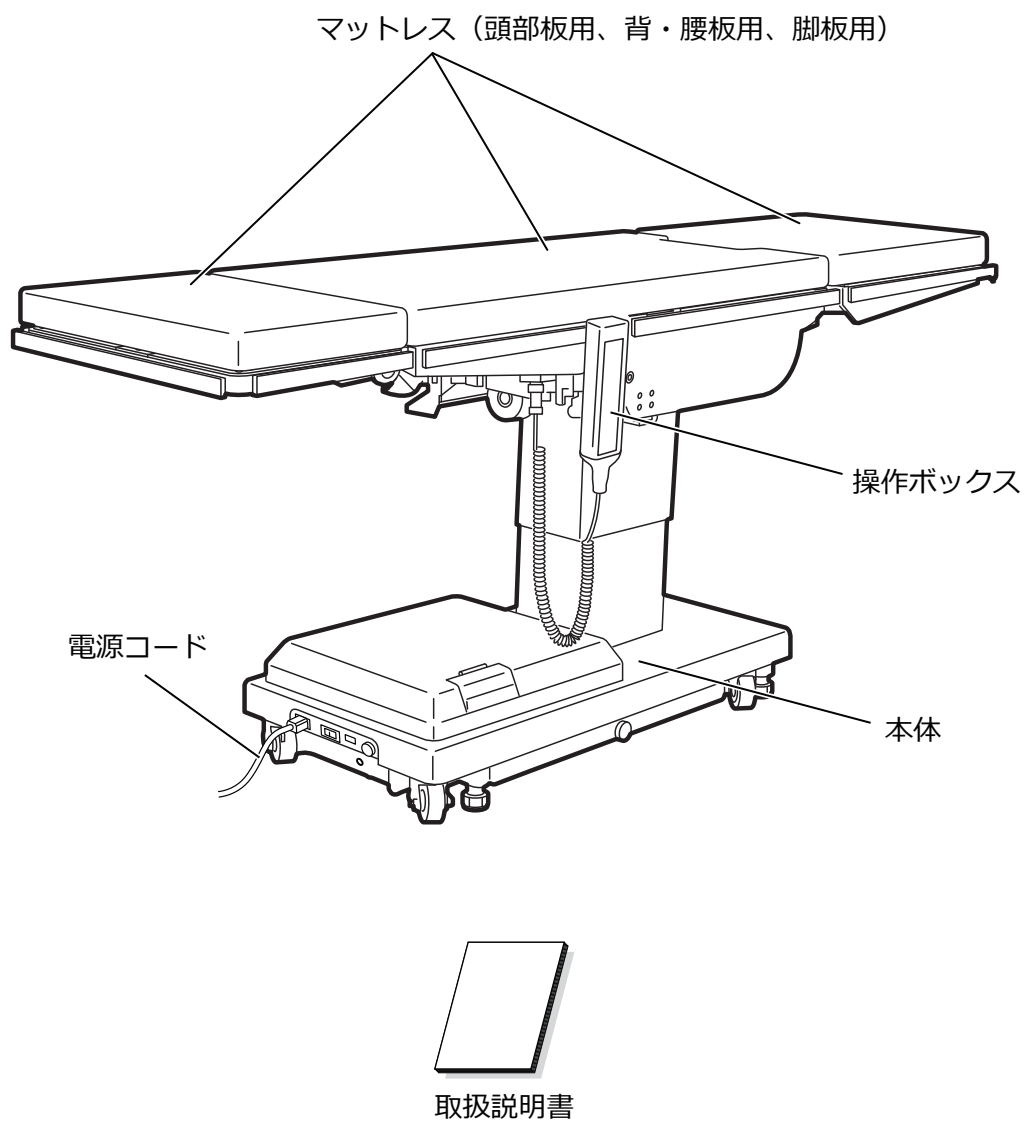
目的とする手術に合わせて高さの調整や、患者の体位を自由に変えて固定する機構を備えています。

電源は医用コンセント電源式・電池電源式の併用式です。

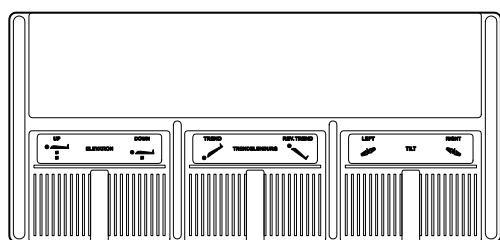
病院の手術室において、本機の使用方法を熟知した医師・看護師・医療機器の技術者が使用してください。

付属品

■ 標準構成

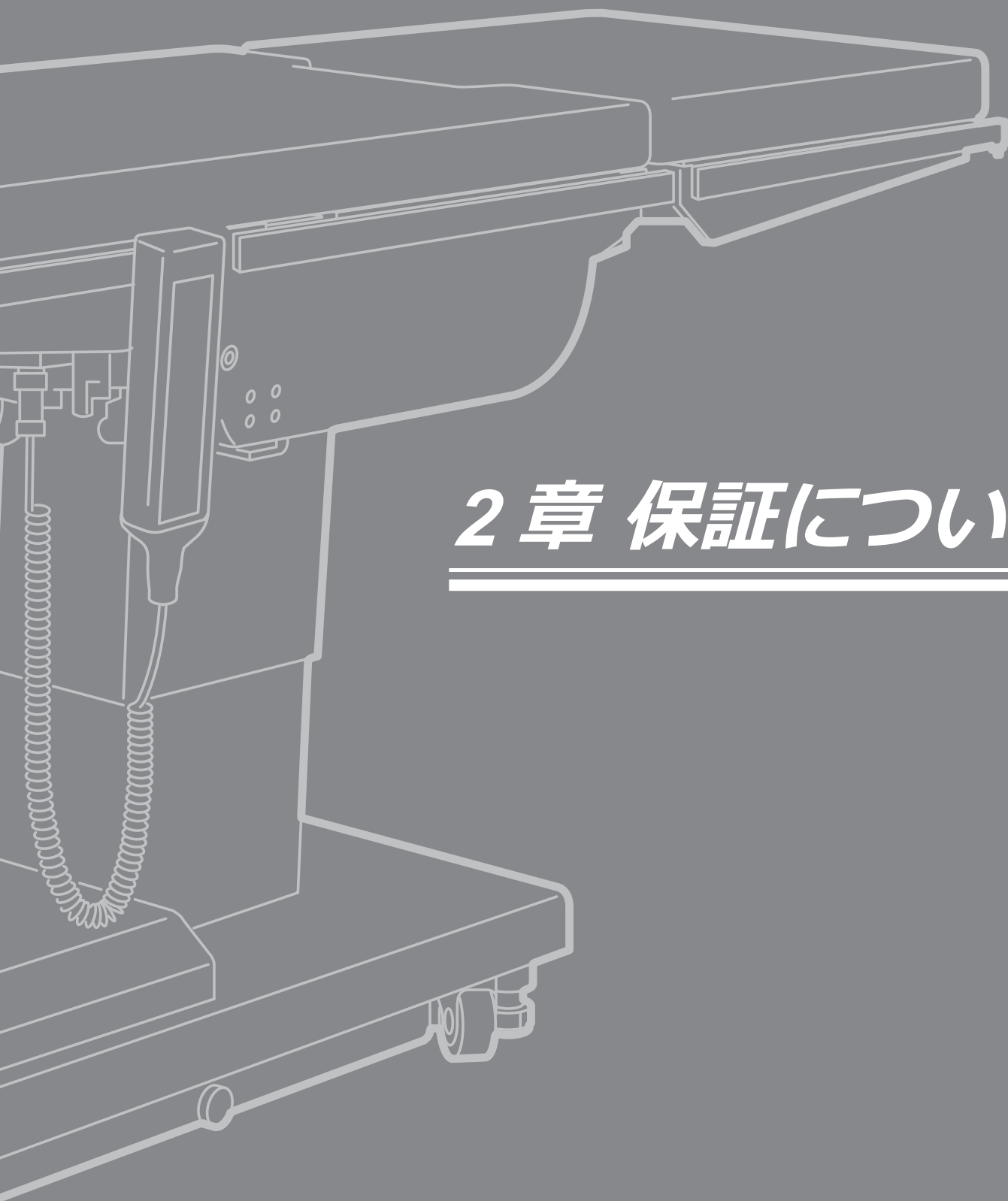


■ オプション



フットスイッチ

2 章 保証について



保証について

本製品は下記の保証修理規定に従って修理いたします。

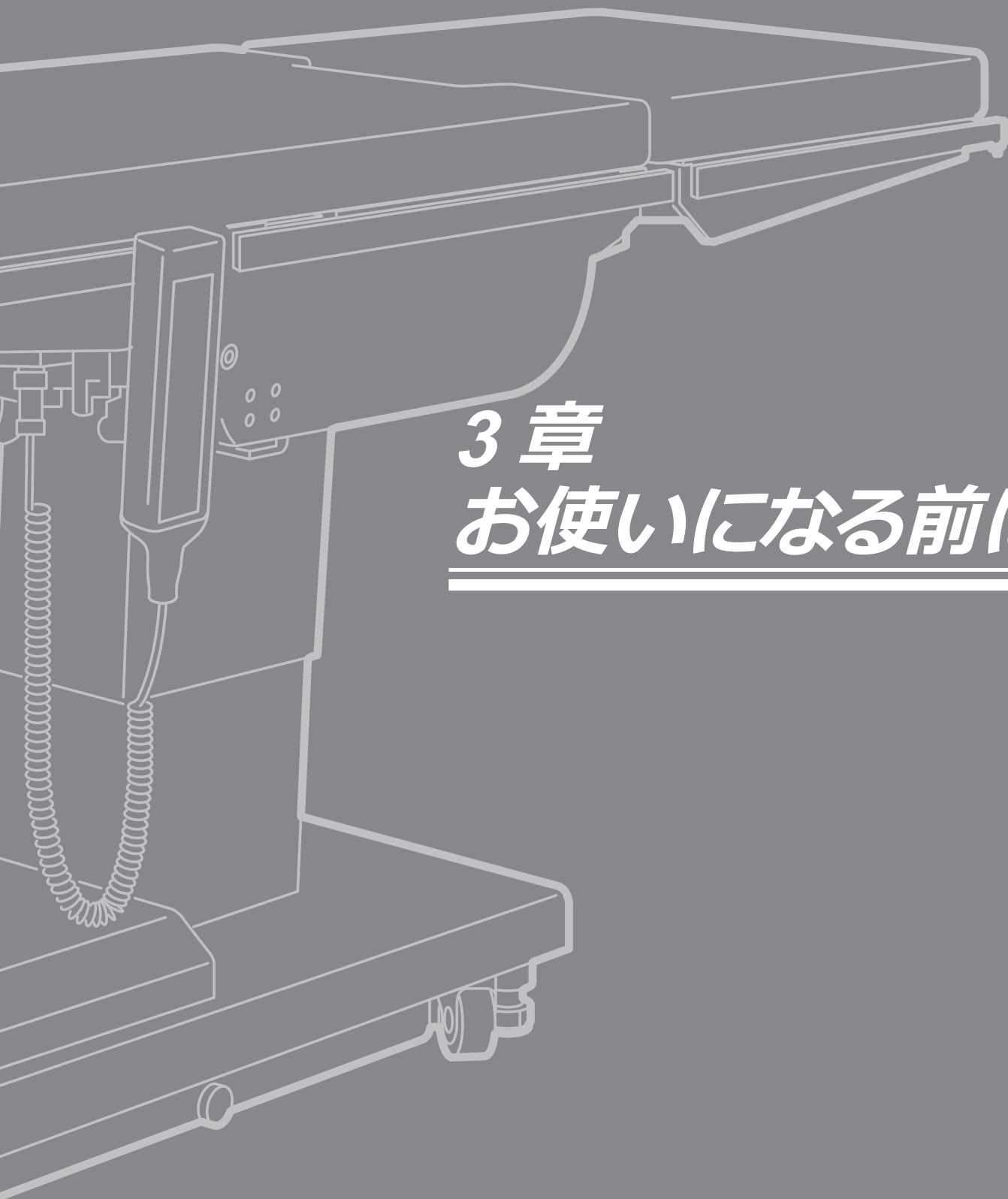
＜保証修理規定＞

1. 保証期間は納品 / 設置日から 1 年間です。保証期間内に添付文書・取扱説明書・貼付ラベル等の注意書に従ったご使用で故障した場合には無償修理をさせていただきます。
2. 修理をご依頼になる場合には、お買い上げの販売店または弊社営業所にお申しつけください。お申しつけに当たっては以下の内容をご連絡ください。
 - (ア) 型名
 - (イ) 製造番号（製品のラベルをご確認ください：注）
 - (ウ) 故障の状態
3. 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
 - (ア) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - (イ) お買い上げ後の設置場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷。
 - (ウ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷。
 - (エ) 車両、船舶等に搭載された場合に生ずる故障及び損傷。
 - (オ) 消耗製品が自然劣化し消耗部品を取り替える場合。
 - (カ) 前各号に掲げる場合のほか、故障の原因が、お客様の使用方法にあると認められる場合。
4. 保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社営業所にお問い合わせください。
5. 本規定は日本国内においてのみ有効です。

以上

注：製造番号のラベルについては、P.13 の⑯、⑰をご確認ください。

3 章 お使いになる前に



お使いになる前にお読みください

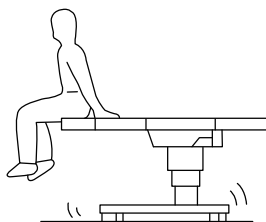
本機を使用するにあたって、以下の行為は絶対しないでください。
手術台の損傷、感電、発火のおそれがあります。

頭部板および脚板

警告

- ・頭部板および脚板に乗らないでください。

転倒、けが
のおそれ
があります。



注意

- ・患者をベッドから移し替えるとき（図 a）や患者の体位を変えるとき（図 b）は、頭部板または脚板に無理な力は加えないでください。

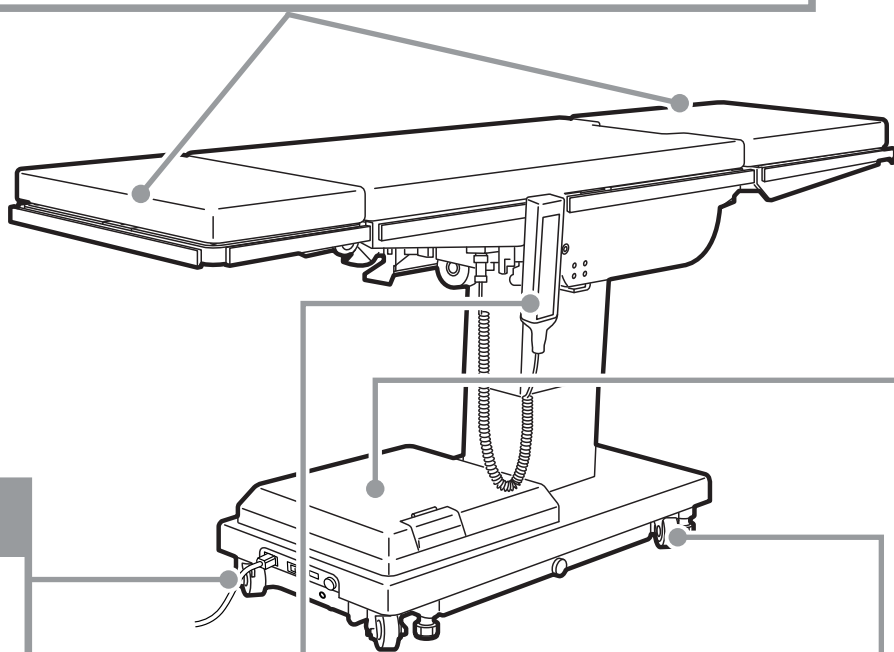
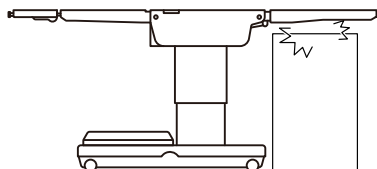
手術台が変形または損傷するおそれがあります。

図 a 患者をベッドから移し替えるとき 図 b 患者の体位を変えるとき



注意

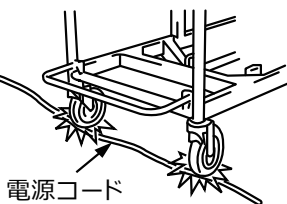
- ・下降および縦転頭上げを作動するときは、脚板下の機器等の有無を確認してください。脚板が機器等に接触して無理な力が加わると、脚板差込軸が破損するおそれがあります。



電源コード

警告

- ・電源コードの上に重量物を置かないでください。
- ・他の機器のキャスター等で乗り越えないでください。
- ・電源コードは無理に引っ張らないでください。
- ・電源コードを医用コンセントから引き抜く位置に、引き抜く作業を妨げる物を置かないでください。



電源コード

操作ボックスの取扱い

警告

- ・操作ボックスのコードを無理に引っ張らないでください。
- ・操作ボックスに強い衝撃を与えないでください。破損するおそれがあります。

使用時のポジションについて

警告

- 必ず付属のマットレスを外れないように確実に取り付けてください。
マットレスがずれ落ちて、けがのおそれがあります。
- 患者のポジションは、サイドレール（金属）から10mm以上離して設定してください。電気メスなどの使用でサイドレールが高温になる場合があります、触れると火傷をするおそれがあります。

患者のポジション

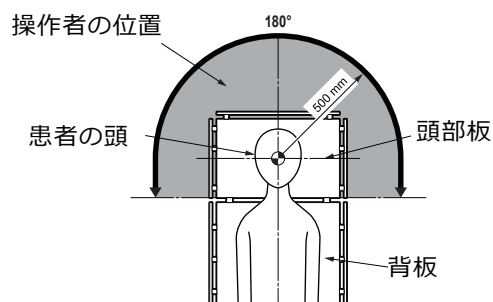
患者のポジションを設定するときは、次の手順で行ってください。

- ① テーブルトップに付属のマットレスを取り付けます。
- ② 患者をマットレスに乗せます。（頭部側と脚部側を逆にして患者を乗せないでください。）
- ③ 手術の目的に合わせたポジションを設定します。

注意

使用者のポジション

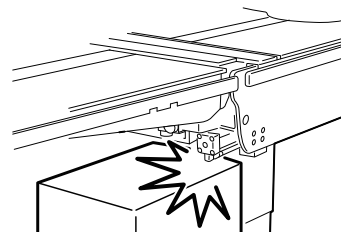
手術台を操作する者は、緊急停止スイッチを即座に押せる位置および患者の容態を常に観察できる位置（図）で行ってください。



ベース部分

注意

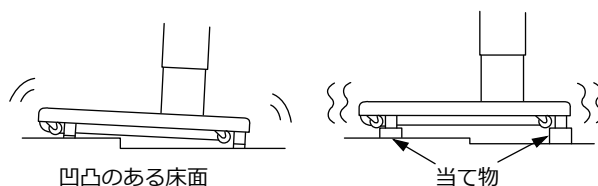
- ベースの上に物を置かないでください。物がはさまり手術台が損傷するおそれがあります。



手術台の設置

注意

- 手術台を凹凸のある床面に設置しないでください。
- 手術台を高くするために手術台の下に当て物を入れないでください。
転倒、けがのおそれがあります。



その他



警告

分解・改造の禁止

- 手術台を分解または改造しないでください。故障の原因となります。

併用する他の医用電気機器

- 使用前に電磁波の影響による誤作動がないことを確認してください。
併用する他の医用電気機器から電磁波の影響による誤作動が発生する場合があります。
- 高周波手術用機器、除細動器を使用するときは取扱説明書を参照してください。誤った使用法は操作者および患者が火傷または機器の誤作動の原因となります。

患者の体位

- 患者の任意の体位を確保するためにテーブルトップを作動、またはアクセサリーで支持するときは、常に患者の状態を監視してください。長時間の体位保持は神経麻痺や褥瘡の原因となります。

許容患者体重

- 許容患者体重(患者およびアクセサリーの合計)を超える荷重(注)をかけないでください。
手術台が作動せず、また故障の原因となります。

注) 昇降: 450kg / 昇降以外の作動: 360kg

保守点検

- 使用前・使用後の点検、および適切な保守点検は必ず行ってください。使用年数または使用頻度によっては耐用期間に満たない場合があります。
- 保守点検については、ご購入店または弊社に相談してください。

静電気防止

- 静電気対策が不十分な床またはアクセサリーで使用しないでください。手術の障害になるおそれがあります。



注意

併用する機器やアクセサリー

- 機器やアクセサリーを併用する前に、それぞれの添付文書または取扱説明書をよく読んで、手術台への影響を確認してください。他社製のアクセサリーを取り付ける場合は、事前にご購入店または弊社に相談してください。アクセサリーが装着できない場合があります。
- 手術台を作動するときは、併用する機器やアクセサリーの位置を確認してください。作動中に接触して、手術台または併用する機器やアクセサリーが損傷するおそれがあります。
- 衛生のため、患者が手術台に触れる部分には必ず滅菌済ドレープを使用してください。

その他



注意

清掃と消毒について

- ・手術台を使用した後は、必ず手術台の清掃および消毒をしてください。

清掃と消毒の手順

- ① 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
 - ② 手術台から全てのマットレスを取り外します。
 - ③ 糸くずの出ない清潔な布に適量の消毒液をつけて、各マットレスの上面・側面・裏面を拭きます。
 - ④ ③と同様の手順で、各テーブル板およびサイドレール表面を消毒します。
 - ⑤ 消毒後 15 分以内に清潔な布でから拭きします。
- ・必ず弊社確認済みの消毒液を使用すること。
 - ・弊社確認済みの消毒液は次のとおりです。

	薬品名称
①	次亜塩素酸ナトリウム 0.1% (ハロゲン系薬剤)
②	ハイポアルコール (ヨード脱色剤)
③	クロルヘキシジン (グルコン酸クロルヘキシジン 0.5%)
④	塩化ベンザルコニウム (逆性石けん 10%)
⑤	ポピドンヨード
⑥	エタノール 80%
⑦	オキシドール (過酸化水素水)
⑧	生理食塩水
⑨	イソプロピルアルコール (IPA) 99.5%

移動時および輸送時の注意

- ・患者を手術台に乗せたままで手術台を移動しないでください。
- ・手術台を移動するときは、以下の手順で行ってください。
 - ① 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
 - ② ハンドルやレバー類が固定の位置になっているか、また各部がしっかりと固定されているか確認します。
 - ③ ブレーキを解除して、手術台を移動します。

※ 感染防止のため、手術台を移動するときは必要に応じて手術台全体を消毒してください。

※ 頭部板や脚板を引いて手術台を移動しないでください。
- ・輸送は以下の条件を満たした状態で行ってください。
 - ① 輸送の前に、必ず手術台全体を消毒する。
 - ② テーブルトップを最低位置まで下げるなど、転倒防止の対策をする。
 - ③ ブレーキを作動させる。
 - ④ 緩衝材などを適切に配置し、輸送中の衝撃による破損を防ぐ。
 - ⑤ コンテナなどに収納して、ほこりや風雨にさらされないようにする。

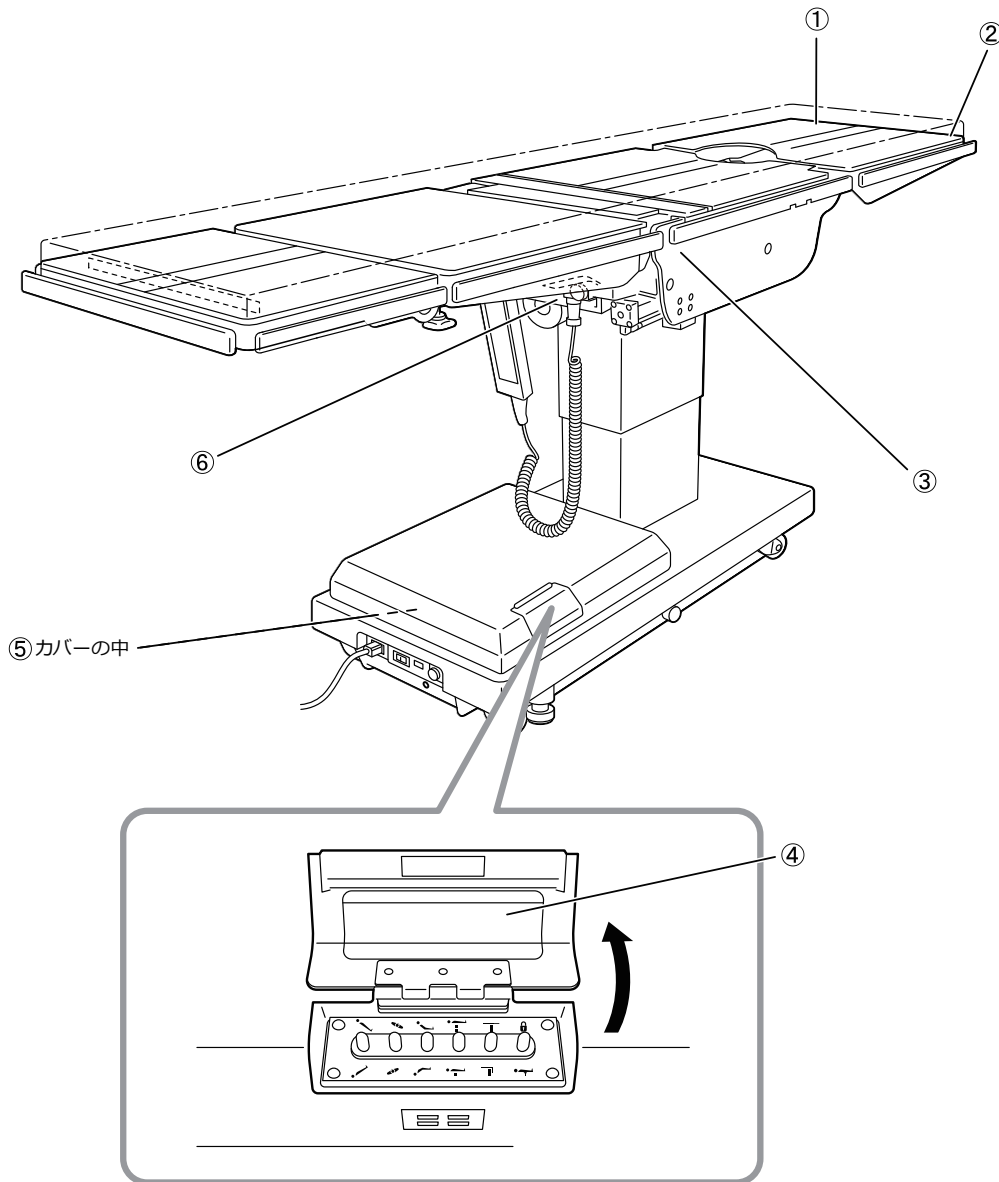
廃棄時の注意

- ・手術台を廃棄するときは、関係する法律または地方自治体の条例に基づいて適切に処置してください。

ラベル内容と貼り付け位置

本機には下記の位置に各種ラベルが貼り付けてあります。
ご使用になる前に必ず各種ラベルの内容をご確認ください。

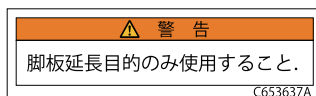
■ 警告・注意ラベル



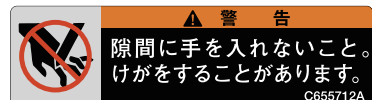
① C653636



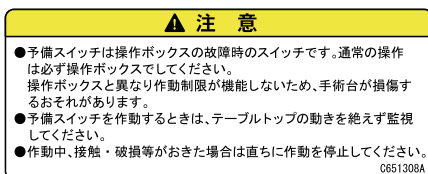
② C653637



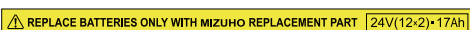
③ C655712



④ C651308



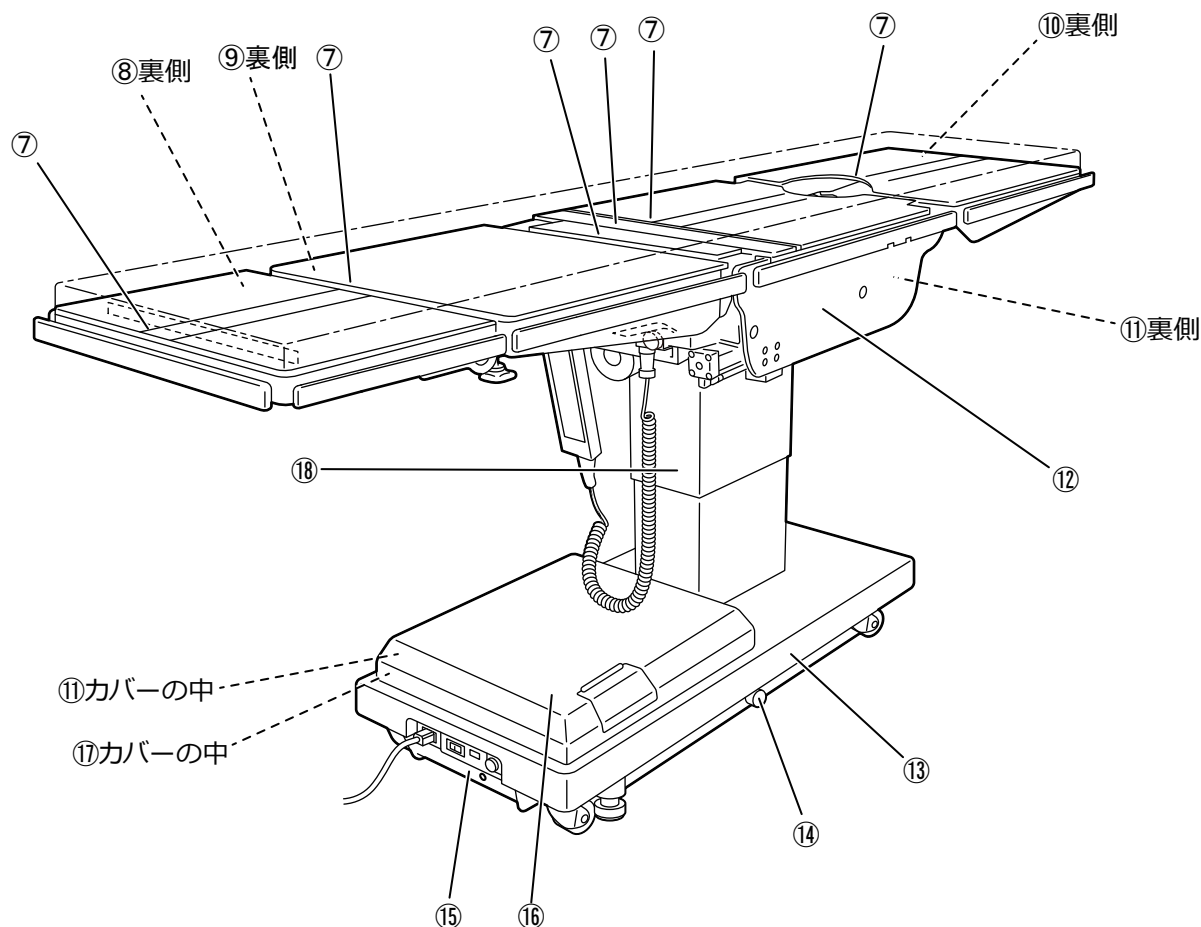
⑤ C653529



⑥ C653614



■ その他のラベル (1/2)



⑦ C653620



⑧ C655645



⑨ C656745



⑩ C656744



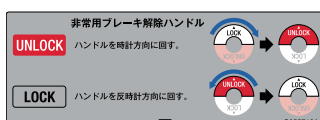
⑪ C653512



⑫ C653627



⑬ C655710



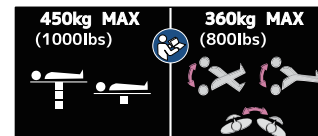
⑭ C655711



⑮ C653513



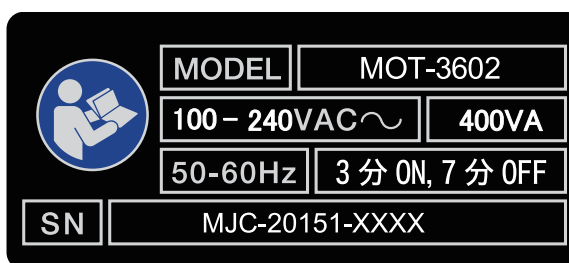
⑰ C653612



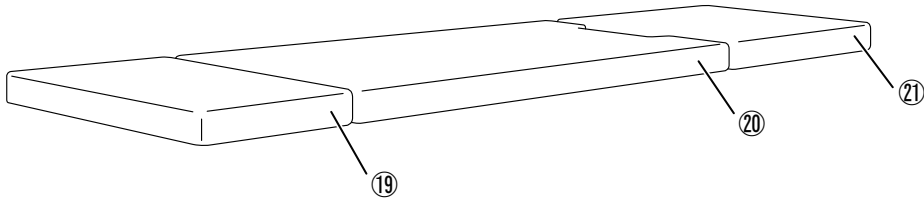
⑯ C600876



⑰ C653623



■ その他のラベル（2/2）



⑱ PIN 50005M2



⑳ PIN 360L6M2

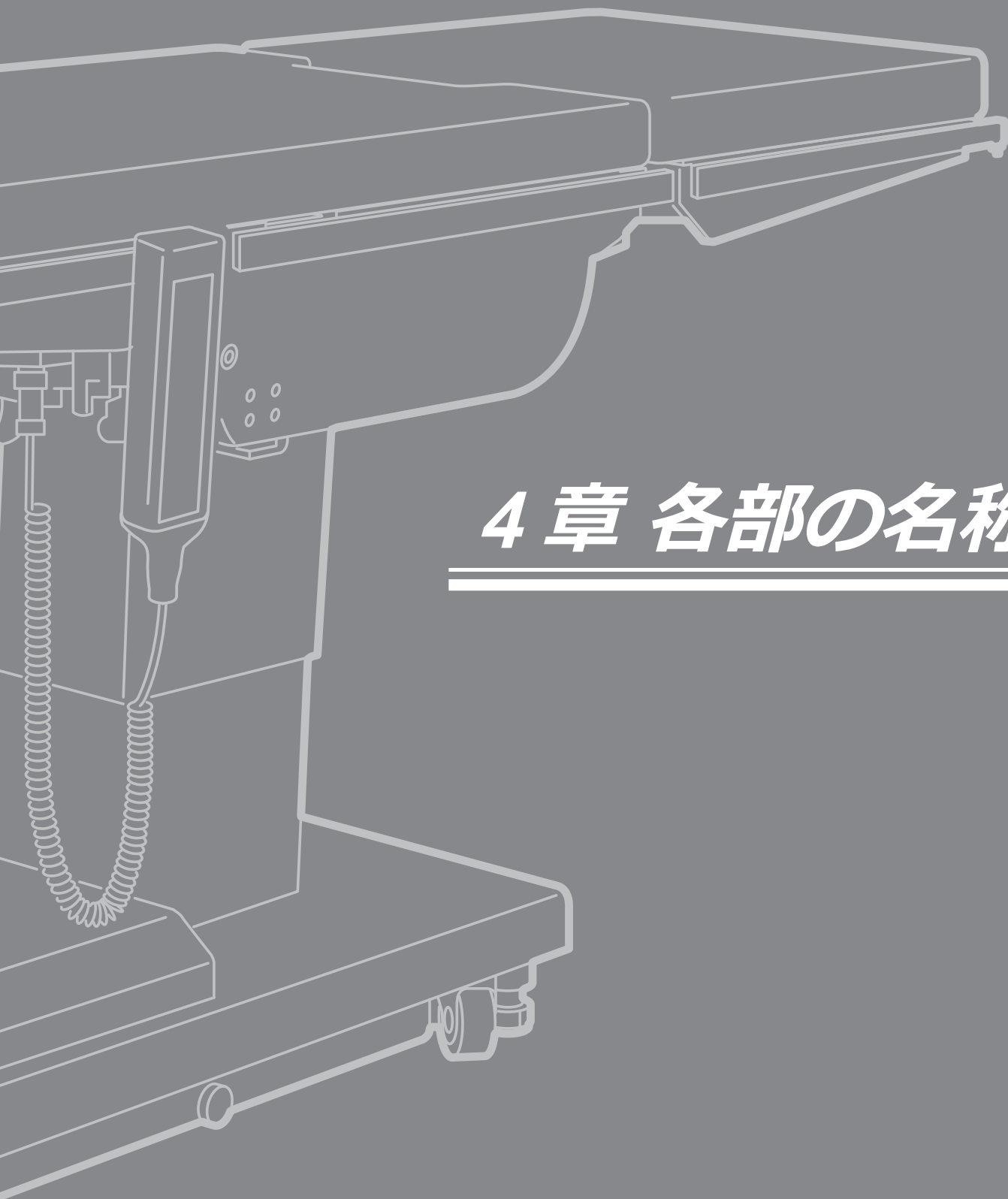


㉑ PIN 360L8M2



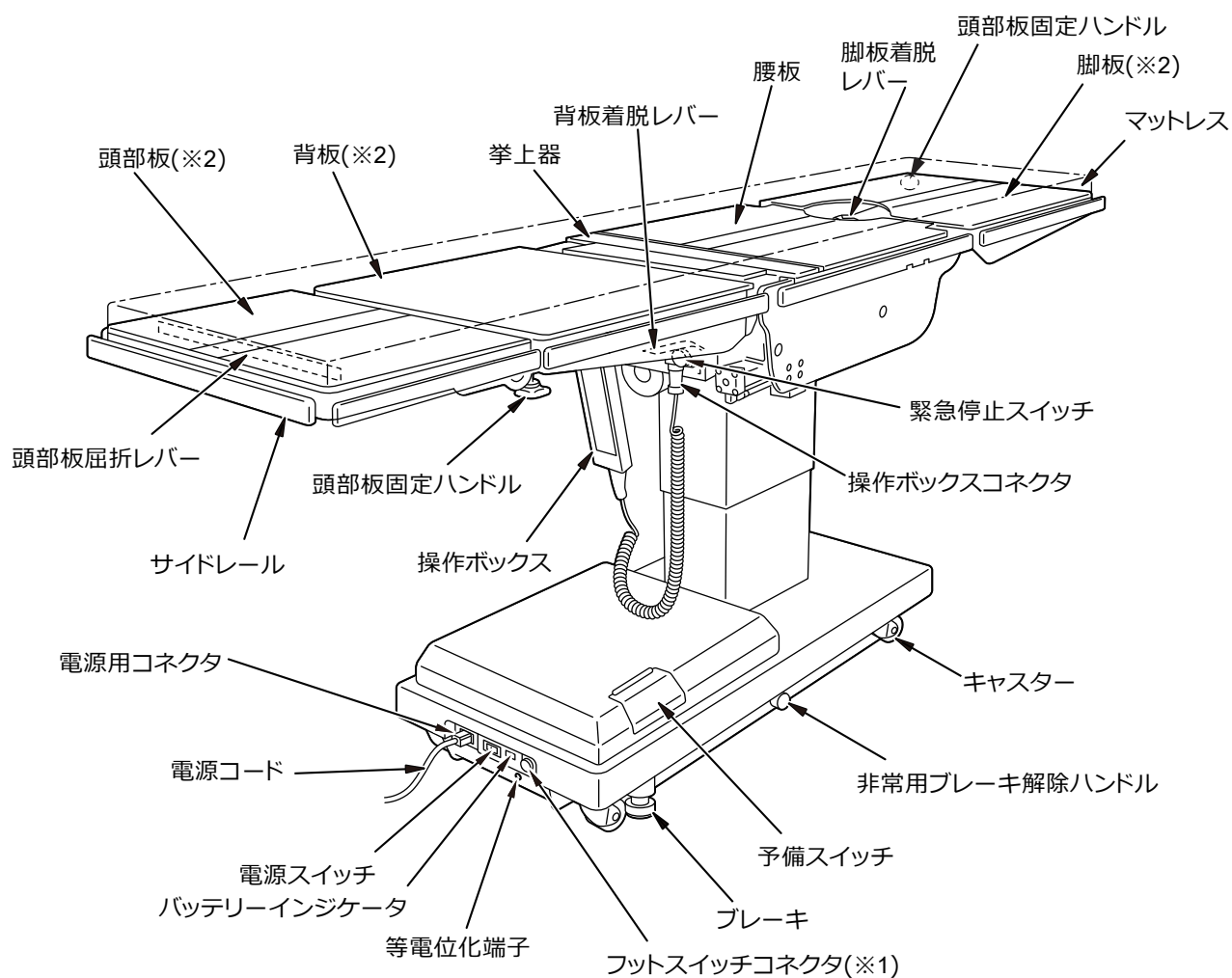
■ 安全記号一覧

記号	解説	ラベル No.
	一般的な危険標識（警告、注意）	① ② ③ ④ ⑤
	一般的な禁止標識	③
	緊急停止	⑥
	取扱説明書に従うこと	⑥ ⑬ ⑭
	保護接地	⑪
	交流	⑯ ⑰
	直流	⑯
IPX4	水の侵入に対する保護等級	⑯
SN	製造番号	⑯ ⑰
	等電位	⑮
	B形装着部	⑦
	耐除細動形のB形装着部	⑱ ⑳ ㉑
	製造業者	⑱ ⑳ ㉑



4 章 各部の名称

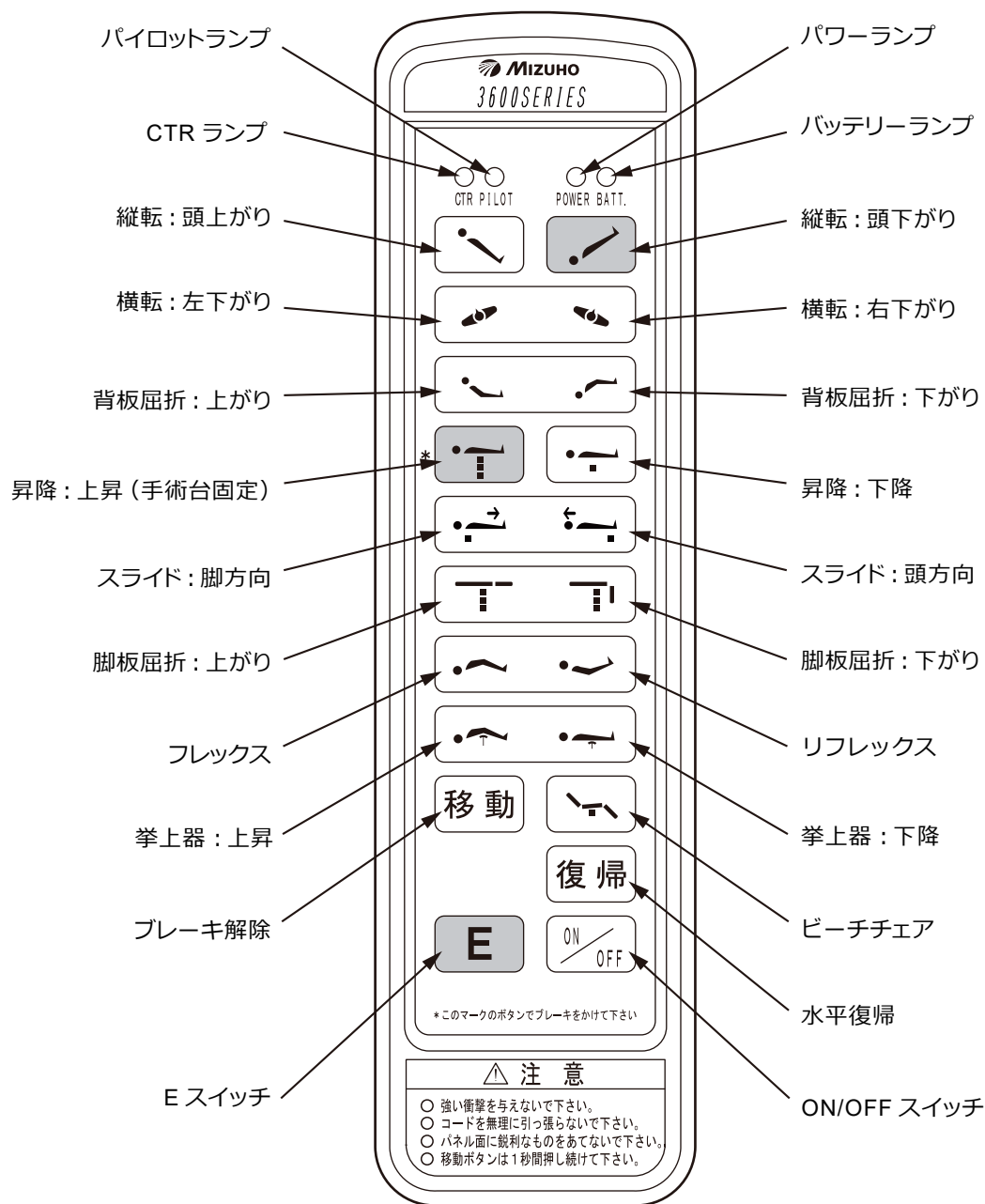
本体



※1 フットスイッチはオプション

※2 頭部板、背板および脚板は取り外し可能です。

操作ボックス

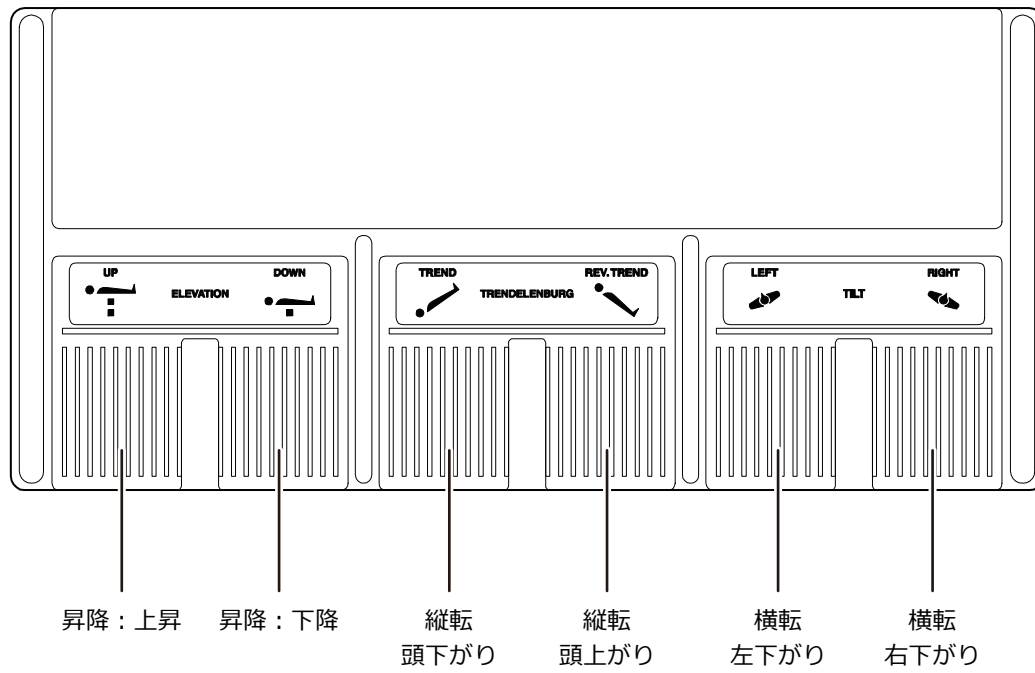


補足

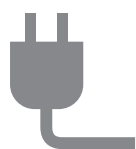
機能ボタンは押している間、作動します。

- 手術台を3分連続して操作した場合、約7分の休息時間を設けてください。モーターがオーバーヒートすると操作ができなくなります。約60分の休息時間を設けると通常通り操作を行うことができます。
- E** を押すとパイロットランプが3秒間点灯します。

フットスイッチ (オプション)



5 章 操作方法



設置と充電 P20



電源の入れ方／
切り方 P25



緊急停止するには
P27



手術台の
固定と解除 P28



ブレーキを
解除する P29



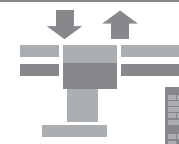
テーブルトップを
横に傾ける P30



テーブルトップを
縦に傾ける P31



背板を傾ける P32



テーブルトップの
高さを変える P33



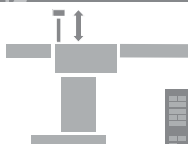
テーブルトップを
スライドさせる P34



脚板を傾ける P36



フレックス P38



挙上器の高さを
変える P39



ビーチチェア P40



自動水平復帰 P41



頭部板の
調整 P42



背板の調整 P44



脚板の調整 P47

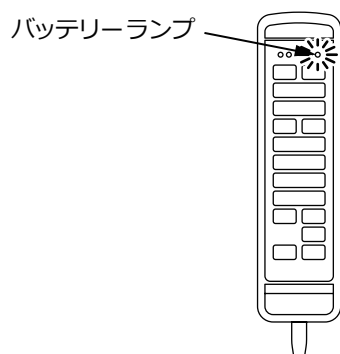


設置と充電

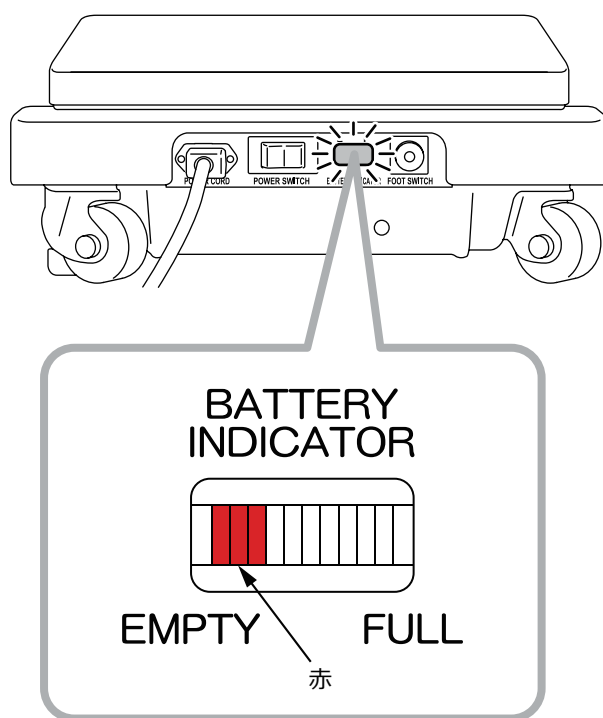
■ 設置する

- ① 平らな場所に移動します。
- ② バッテリーランプを確認します。

操作ボックスのバッテリーランプ④が点滅したら充電が必要です。



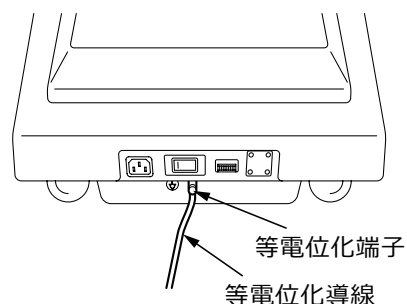
- ③ バッテリーインジケータの⑤が点灯したら充電が必要です。



⚠ 注意

等電位接地

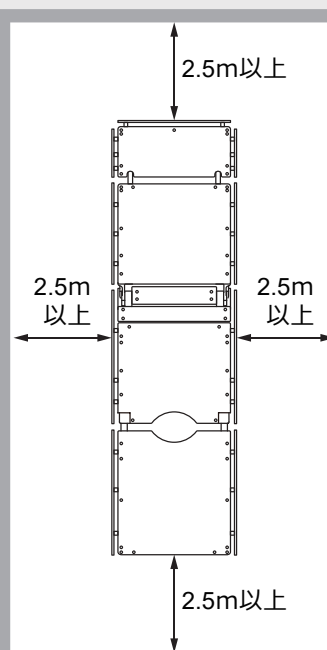
等電位化端子と医用接地端子を等電位化導線で接地します。等電位化導線は別途用意してください。



補足

本機の設置スペースは以下のとおりです。

(JIS T 1022:病院電気設備の安全基準)

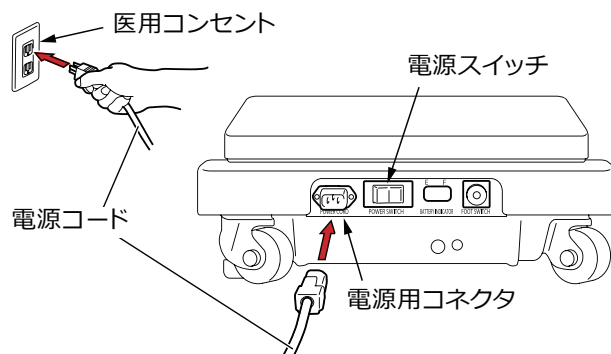




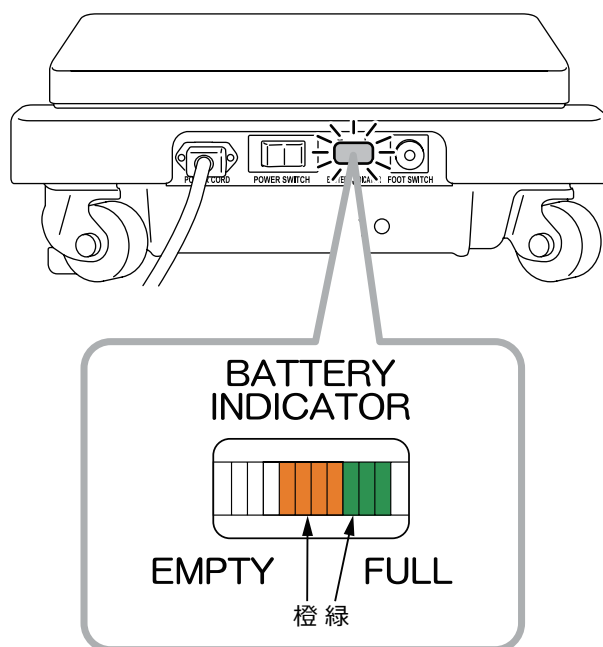
設置と充電

■ 充電する

- ① 電源コードを電源用コネクタと医用コンセントに差し込みます。



- ② 電源スイッチを入ると充電が始まります。
充電中はバッテリーインジケータの(橙)が順に点灯します。
- ③ バッテリーインジケータの(橙)と(緑)が順に点灯すると充電は完了です。



⚠ 注意

- 感電の危険を回避するために、保護装置を備えた電源に接続してください。
- 電源コードは必ず「MIZUHO」ロゴ付きの専用コードを使用してください。
- 電源用コネクタ内に液体の侵入、または埃などが付着していないことを確認してから、電源コードを差し込んでください。
- 電源を完全に遮断するときは、電源コードを医用コンセントから引き抜いてください。
- バッテリーが劣化すると、停電などで交流電源が使えないときに、バッテリー電源による使用ができなくなります。

補足

- 初めてお買い求めのとき、長い間使わなかったときは、必ず充電してからお使いください。
- バッテリーは使わずに保管していた状態でも自然放電します。必ず充電してからお使いください。
- 手術台使用後に操作ボックスのバッテリーランプが点滅した場合、あるいは使用時に手術台下部のバッテリーインジケータが赤のみ点灯している場合は、直ちに充電してください。充電不足になると交流電源のみ使用可能となり、バッテリー電源による使用はできなくなります。



補足

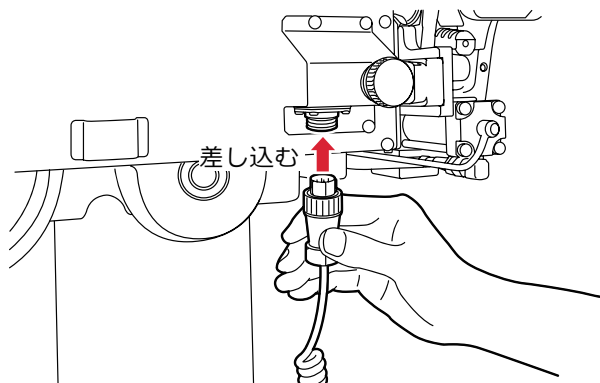
- 本機で使用のバッテリーの耐用期間は約 2 年です。耐用期間を経過したら必ずご購入店または弊社にバッテリー交換を依頼してください。
- 使用条件によってバッテリーの寿命は大きく変わります。短時間使用で頻繁に充放電が繰り返されるとバッテリーの劣化が早まる可能性があります。充電満了まで最長で 24 時間程度掛かりますので、週一回充電（週末の充電）をお奨めします。
- 充電してもバッテリーがすぐに放電する場合は、バッテリーの劣化が考えられます。ご購入店または弊社に修理を依頼してください。
- 充電中でも電源 ON/OFF スイッチで操作可能です。



設置と充電

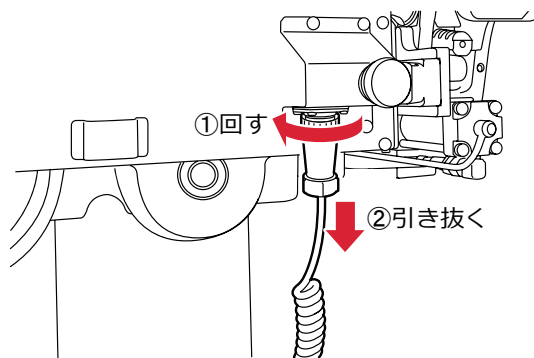
■ 操作ボックスの取り付け

- ① コネクタをガイドに合わせて差し込みます。



■ 操作ボックスの取り外し

- ① コネクタのリングを矢印方向に止まるまで回します。
② 止まったら下に引き抜きます。



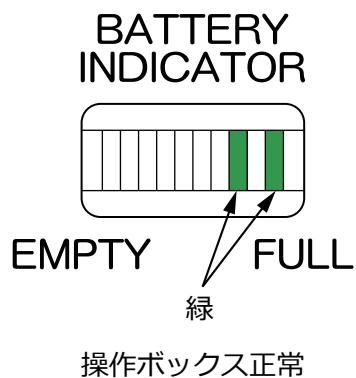


設置と充電

■ 自己診断機能

本機には、手術台本体と操作ボックスの通信状態を確認する自己診断機能が内蔵されています。

- ① 電源コードを接続します。
- ② 操作ボックスの  を押します。
- ③ 操作ボックスの  と機能スイッチの1つを同時に押します。
このときバッテリーインジケータの緑が2本点灯すれば操作ボックスは正常です。





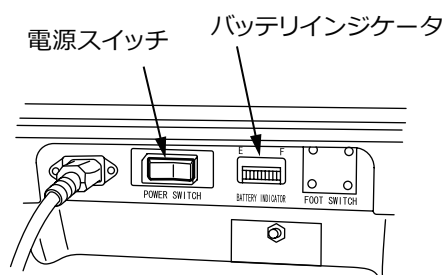
電源の入れ方／切り方

■ 医用コンセントの電源で使用する とき

入れ方

- ① ベースの電源スイッチを ON にします。

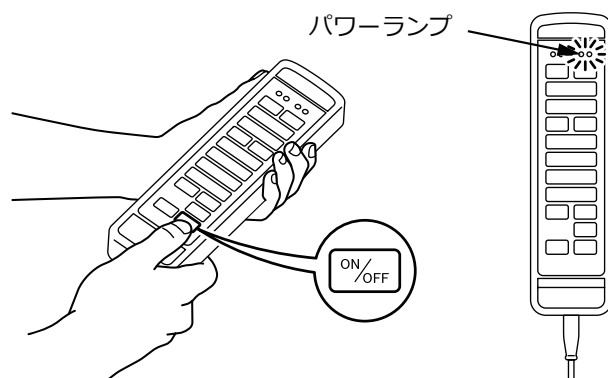
電源スイッチ(緑)およびバッテリーインジケータが点灯します。



- ② 操作ボックスの  を押します。

操作ボックスのパワーランプ(緑)が点灯して電源が入ります。

ベースの電源スイッチを ON にする前に操作ボックスのスイッチを ON にすると、バッテリー電源 ON の状態になります。



切り方

- ① 操作ボックスの  を押して OFF にします。

操作ボックスのパワーランプ(緑)が消灯します。

- ② ベースの電源スイッチを OFF にします。

電源スイッチ(緑)およびバッテリーインジケータが消灯して電源が切れます。

操作ボックスのスイッチを OFF にする前にベースの電源スイッチを OFF にすると、バッテリー電源 ON の状態になります。

補足

緊急時または電源を完全に遮断するときは、電源コードを医用コンセントから引き抜いてください。



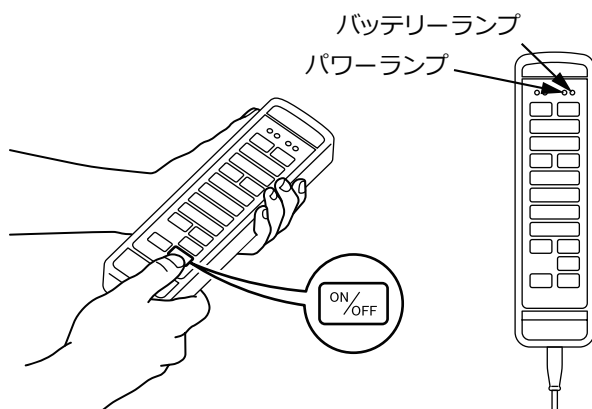
電源の入れ方／切り方

■ バッテリー電源で使用する時

入れ方

- ① 操作ボックスの  を押します。

パワーランプ(緑)、バッテリーランプ(橙)およびバッテリーインジケータが点灯して電源が入ります。



切り方

- ① 操作ボックスの  を押します。

パワーランプ(緑)、バッテリーランプ(橙)およびバッテリーインジケータが消灯して電源が切れます。

補足

バッテリー電源で使用中、2 時間以上操作しないと自動的に電源が OFF になります。

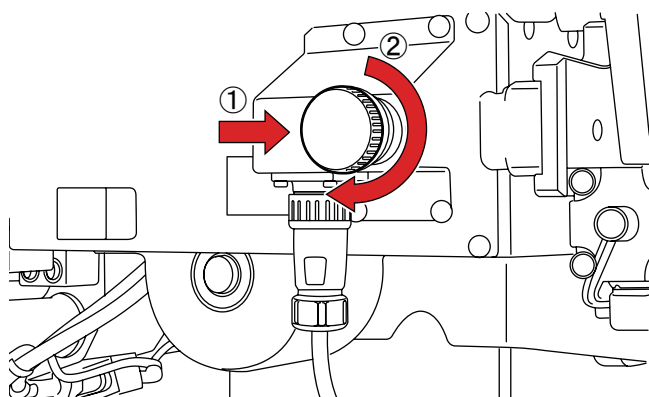


緊急停止するには

■ 緊急停止スイッチ

緊急停止スイッチの操作

- ① 緊急時、緊急停止スイッチを押します。ブザーが鳴り作動が停止します。
- ② 作動停止後、緊急停止スイッチを矢印の方向に回す、または手前に引いて解除します。
ブザーが止まります。



- ③ 操作ボックスのスイッチを押して、反対方向へ作動させます。



警告

緊急停止スイッチは緊急時のみ使用してください。

補足

緊急停止スイッチは操作ボックスコネクタの上部にあります。

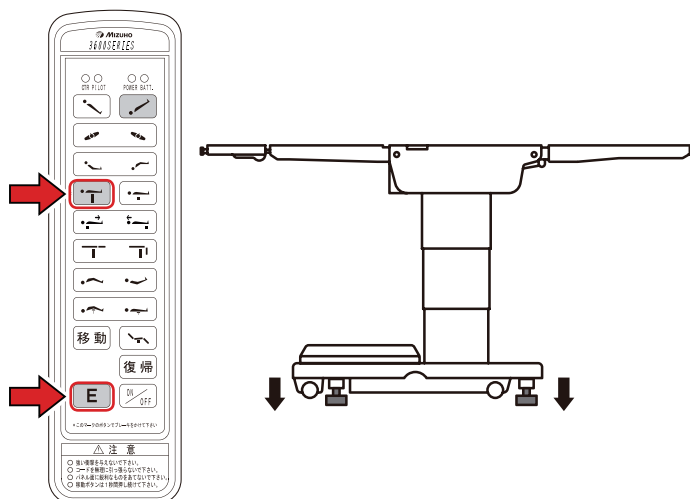


手術台の固定と解除

■ 手術台を固定する

- ① **E** を押しながら **T** を押します。

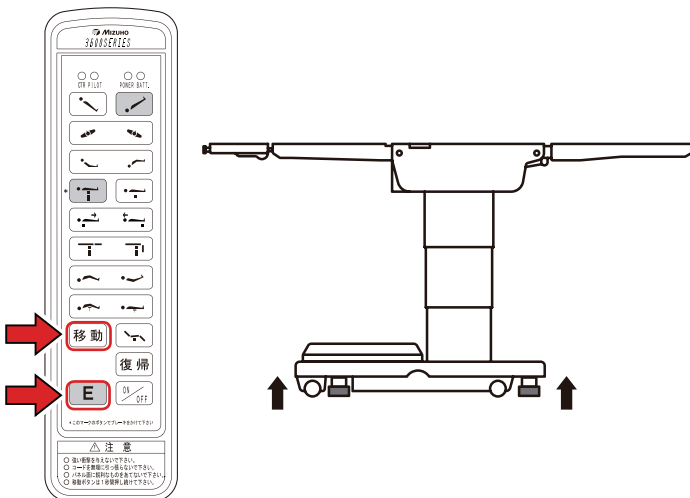
ブレーキが作動して手術台が固定されます。上昇はブレーキの作動が完了するまで作動しません。



■ 手術台の固定を解除する

- ① **E** を押しながら **移動** を押します。

手術台のブレーキが解除されて手術台が移動できます。



警告

- ブレーキ作動後、手術台が確実に固定されていることを確認してください。
- 作動を停止する必要がある場合は、緊急停止スイッチを押してください。
- 患者を乗せた状態でブレーキ解除をしないでください。患者が転落するおそれがあります。

補足

手術台固定とブレーキ解除は一回 **E** と **T** または **移動** を押すだけで作動します。手術台固定またはブレーキ解除完了までの時間は、約 7～8秒です。



ブレーキを解除する

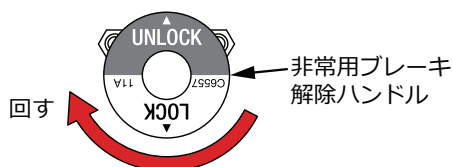
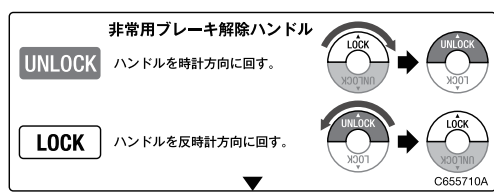
■ 非常用ブレーキ解除ハンドル

手術台の電気系統に異常が起きた場合は、非常用ブレーキ解除ハンドルの操作で手術台を移動することができます。

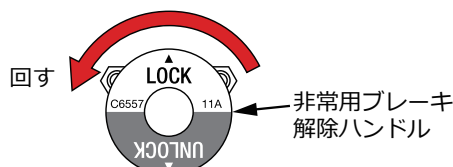
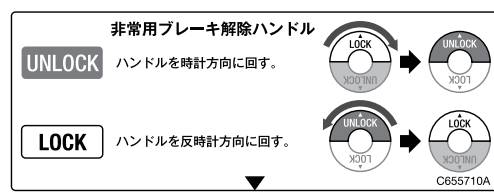
ブレーキを解除するときは以下の手順で操作を行います。

- ① 非常用ブレーキ解除ハンドルをUNLOCKの方向に回します。

ブレーキが解除されます。



- ② ブレーキ解除確認後、非常用ブレーキ解除ハンドルをLOCKの方向に回します。



- ③ 操作ボックスの **E** と **移動** を 1 秒以上押します。

ブレーキが解除されて手術台が移動できます。

- ④ 固定するときは、操作ボックスの **E** を押しながら **T** を押します。

警告

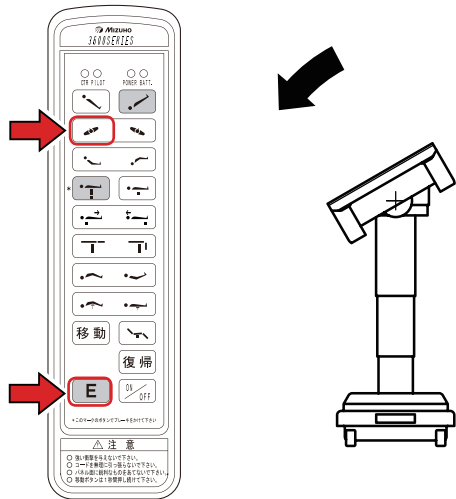
- 非常用ブレーキ解除ハンドルがUNLOCKの状態ではテーブルトップを傾けないでください。患者が転落するおそれがあります。
- 非常用ブレーキ解除ハンドルを戻したら、操作ボックスの **E** と **移動** を押してブレーキ解除操作をしてください。ブレーキ解除操作を行わずに手術台を作動させると、ブレーキ解除状態で作動するため患者が転落するおそれがあります。ブレーキ解除操作後は、固定操作を行って手術台を固定してください。



テーブルトップを横に傾ける（横転）

■ 左に下げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
- テーブルトップが、頭側から見て左下がりの位置になります。

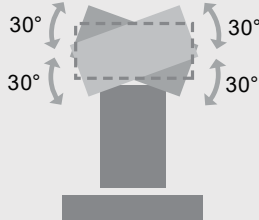


警告

患者を乗せて横転操作をするときは、必ず弊社手術台アクセサリーの固定器を使用してください。患者が転落するおそれがあります。

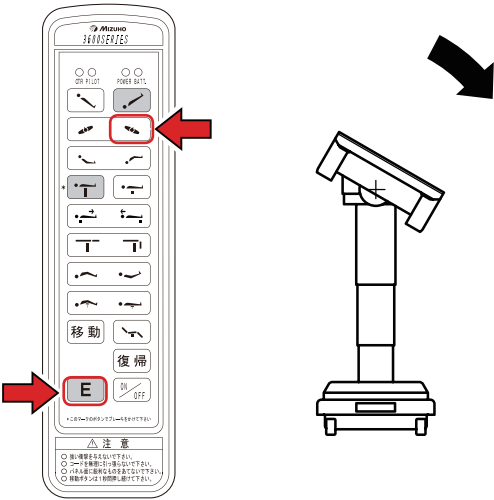
補足

右下がり、左下がりの最大角度は水平位置から 30 度です。



■ 右に下げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
- テーブルトップが、頭側から見て右下がりの位置になります。

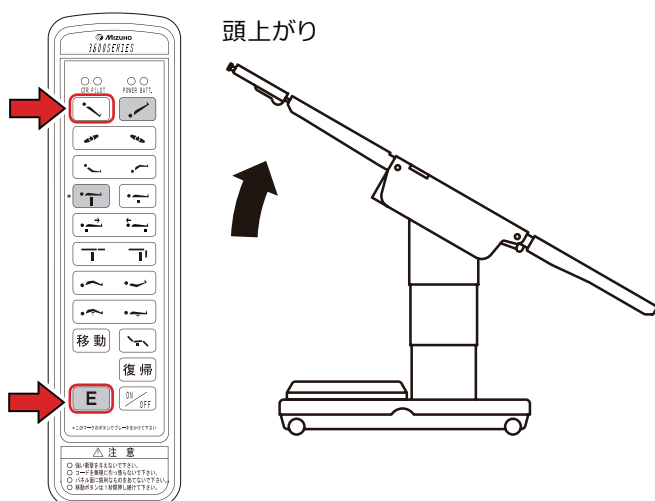




テーブルトップを縦に傾ける（縦転）

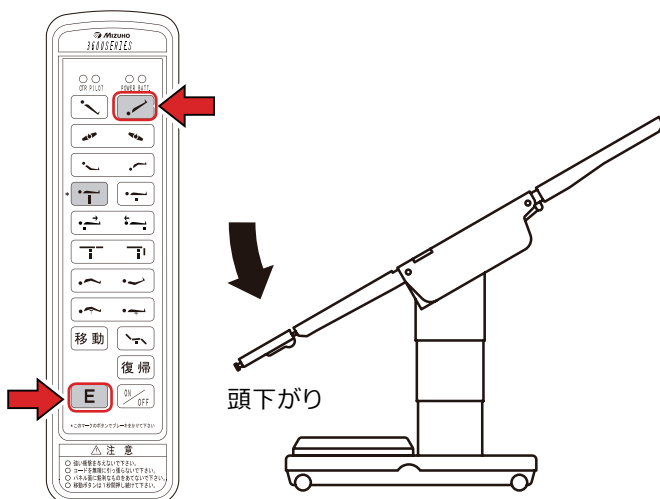
■ 頭を上げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
テーブルトップが頭上がりの位置になります。



■ 頭を下げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
テーブルトップが、頭下がりの位置になります。

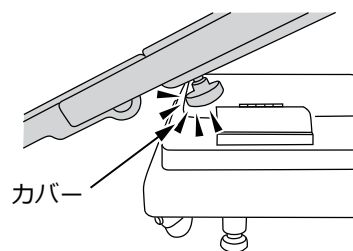


⚠ 警告

患者を乗せて縦転操作をするときは、必ず弊社手術台アクセサリーの固定器を使用してください。患者が転落するおそれがあります。

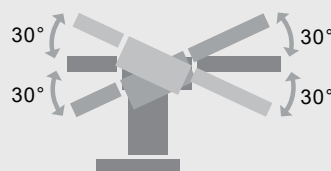
⚠ 注意

- 頭部板先端が床に接触するまで作動させないでください。破損のおそれがあります。
- 頭部板固定ハンドルがカバーに接触するまで作動させないでください。破損のおそれがあります。



補足

頭上がり、頭下がりの最大角度は水平位置から 30 度です。

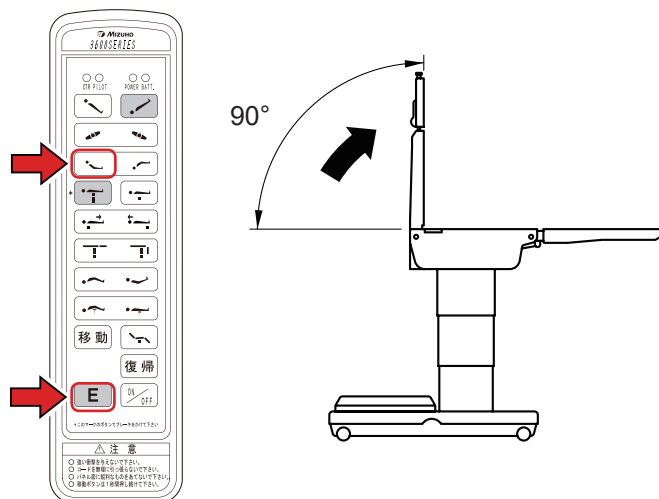




背板を傾ける

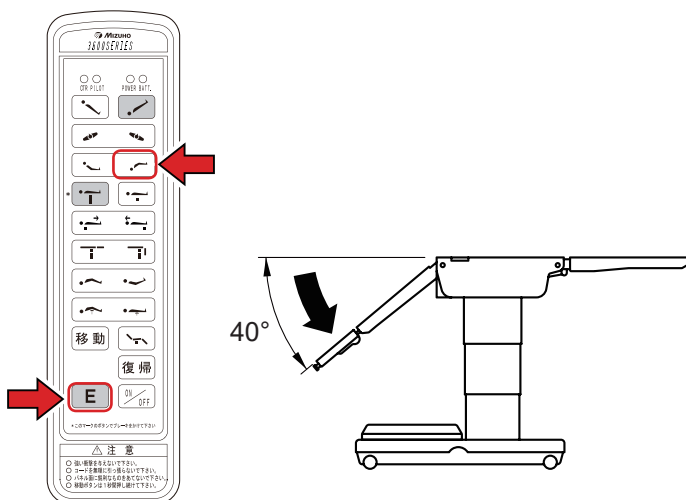
■ 背板を上げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
背板が上がります。



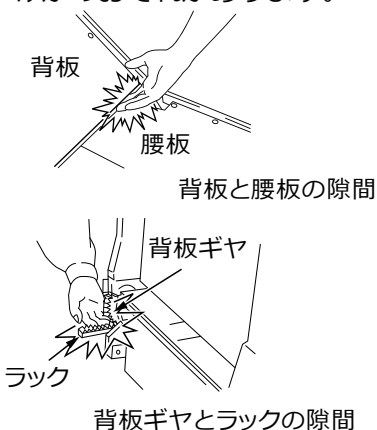
■ 背板を下げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
背板が下がります。



警告

作動中、次の隙間部分に手を入れないでください。
けがのおそれがあります。

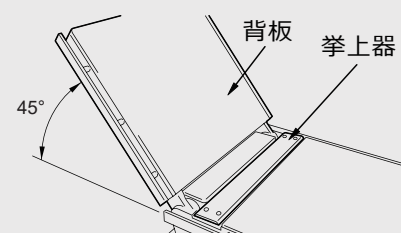


補足

- 背板上がりの最大角度は水平位置から 90 度です。
- 背板下がり最大角度は水平位置から 40 度です。

制限

- テーブルトップ中点が、中点位置より脚側へスライドした状態では、背板は水平位置より下には下がりずブザーが鳴ります。テーブルトップを中点位置から頭側へスライドすると、背板は下がります。
- 挙上器が上がった状態では、背板は水平位置より 45 度以上は上昇せずブザーが鳴ります。挙上器を下まで下げると背板は最大 90 度まで屈折します。

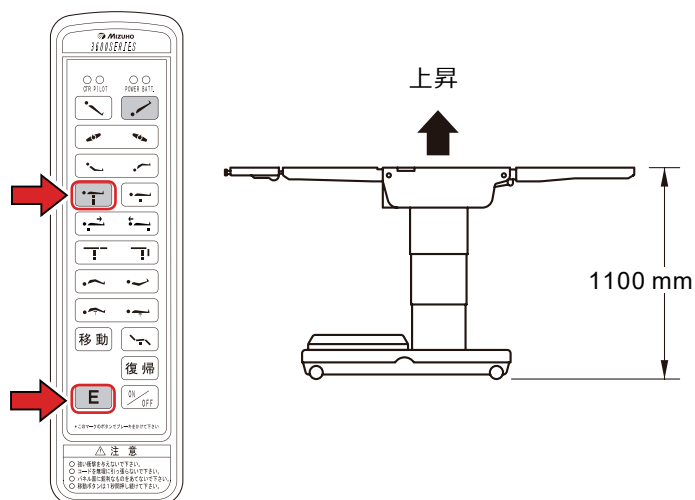




テーブルトップの高さを変える

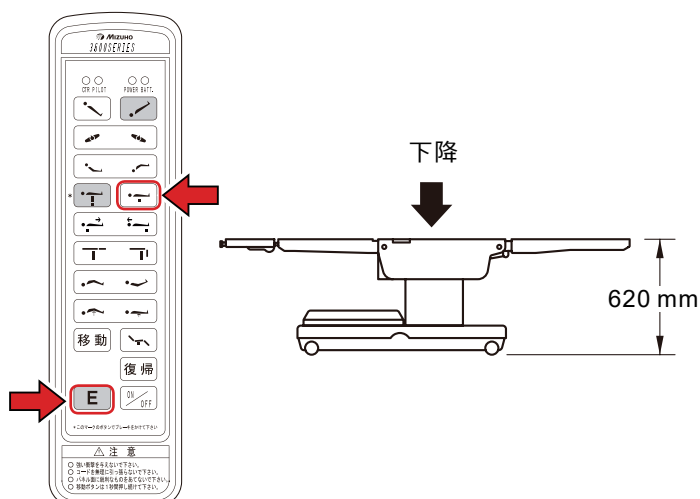
■ テーブルトップを上げる

- ① **E** を押しながら **↑** を押します。
テーブルトップが上昇します。



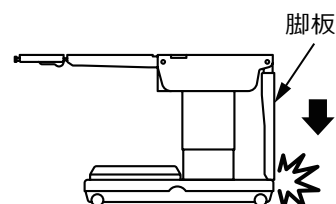
■ テーブルトップを下げる

- ① **E** を押しながら **↓** を押します。
テーブルトップが下降します。



⚠ 注意

脚板を屈折した状態で下降させないでください。
脚板先端がベースにぶつかり破損するおそれがあります。



補足

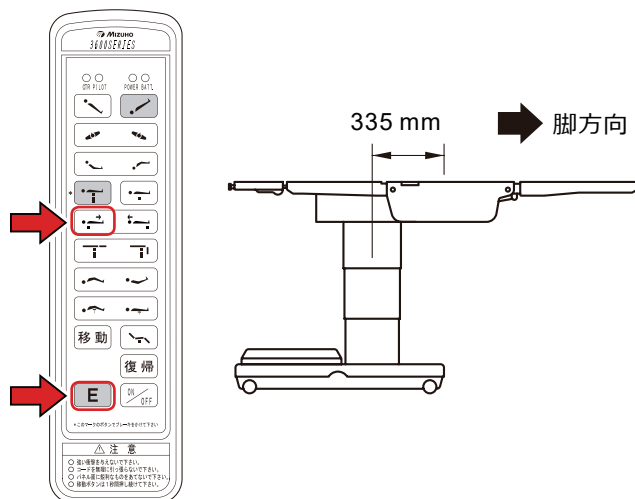
- 最高上昇位置は、床面からテーブルトップ上面まで 1100mm です。
- 最低下降位置は、床面からテーブルトップ上面まで 620mm です。



テーブルトップをスライドさせる

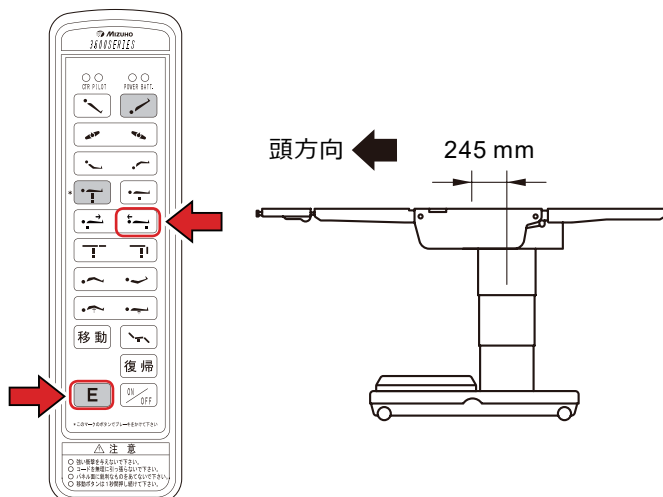
■ 脚方向に動かす

- ① **E** を押しながら  を押します。
テーブルトップが脚方向にスライドします。



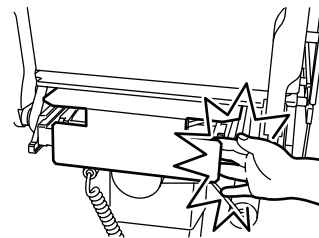
■ 頭方向に動かす

- ① **E** を押しながら  を押します。
テーブルトップが頭方向にスライドします。



警告

作動中、フレームの隙間部分に手を入れないでください。
けがのおそれがあります。



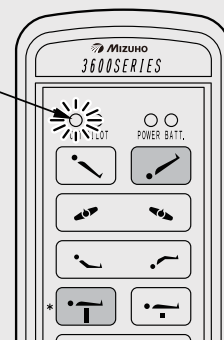
補足

- テーブルトップ中点位置からのスライド最大量は下記のとおりです。

脚方向	335mm
頭方向	245mm

- テーブルトップが中点位置になると、操作ボックスのCTRランプが点灯します。

CTRランプ



- 脚方向または頭方向にスライドした状態から反対方向へスライドを操作すると中点位置で停止します。停止したらスイッチを離してもう一度スイッチを押すと、最大量までスライドします。



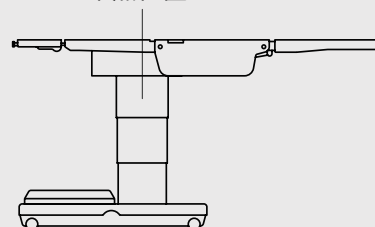
テーブルトップをスライドさせる

補足

制限

- 背板が水平位置より下がった状態では、スライド機能はテーブルトップ中点位置より脚側へスライドせずブザーが鳴ります。背板を水平位置から上に上げると、テーブルトップは脚側にスライドします。

中点位置



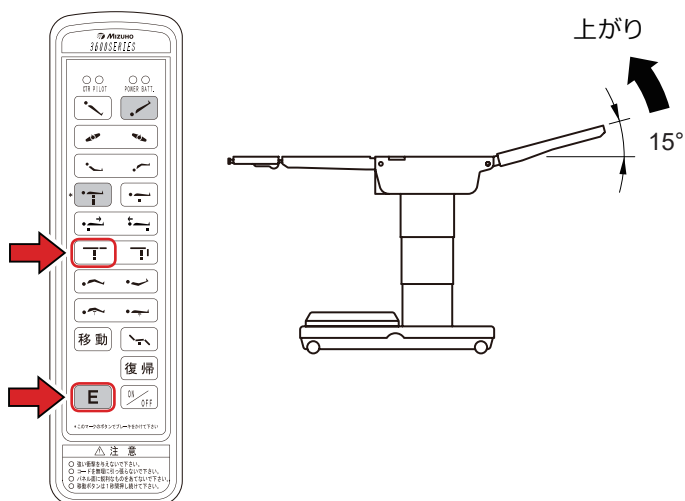
- 脚板が 45 度以上、下がった状態では、スライド機能はテーブルトップ中点位置より頭側へスライドせず、ブザーが鳴ります。脚板を 45 度より上に上げるとテーブルトップは頭側にスライドします。
- 脚板が下がった状態では、スライド機能はテーブルトップ中点位置より頭側 195 mm の位置で停止し、ブザーが鳴ります。脚板を水平位置まで上げるとテーブルトップは頭側へ最大量までにスライドします。



脚板を傾ける

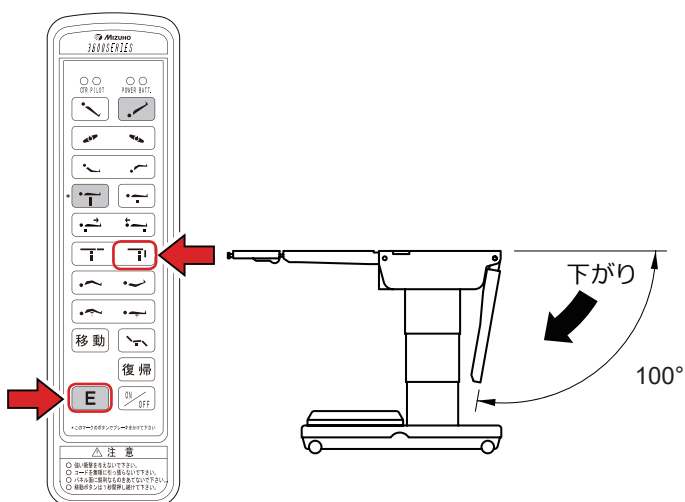
■ 脚板を上げる

- ① **E** を押しながら **T** を押します。
脚板が上がります。



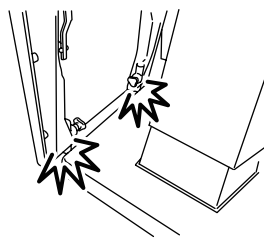
■ 脚板を下げる

- ① **E** を押しながら **T** を押します。
脚板下がります。

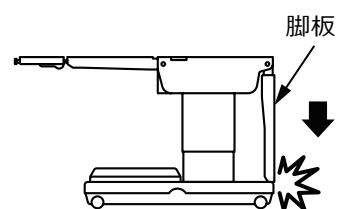


⚠ 注意

- 脚板を下げた状態で、縦転頭上りを作動しないでください。脚板先端がベースにぶつかり破損するおそれがあります。



- 脚板を下げた状態で、テーブルトップを下降させないでください。脚板先端がベースにぶつかり破損するおそれがあります。



補足

- 脚板上がりの最大角度は水平位置から 15 度です。
- 脚板下がりの最大角度は水平位置から 100 度です。

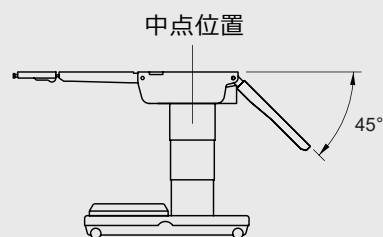


脚板を傾ける

補足

制限

- テーブルトップ中点が、中点位置より頭側へスライドした状態では、脚板は水平位置より 45 度までしか下がらずブザーが鳴ります。テーブルトップを中点位置から脚側へスライドすると、脚板は 45 度より下まで下がります。



- テーブルトップが頭側最大値より脚側へ 50 mm までの位置では、脚板は水平位置より下へは下がらずブザーが鳴ります。テーブルトップを頭側最大値より 50 mm 以上脚側へスライドすると、脚板は水平位置より下へ下がります。

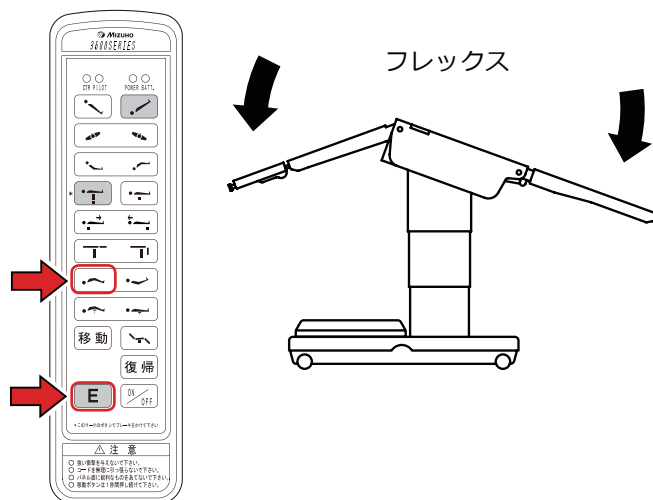


フレックス

■ フレックスにする

- ① **E** を押しながら  を押します。

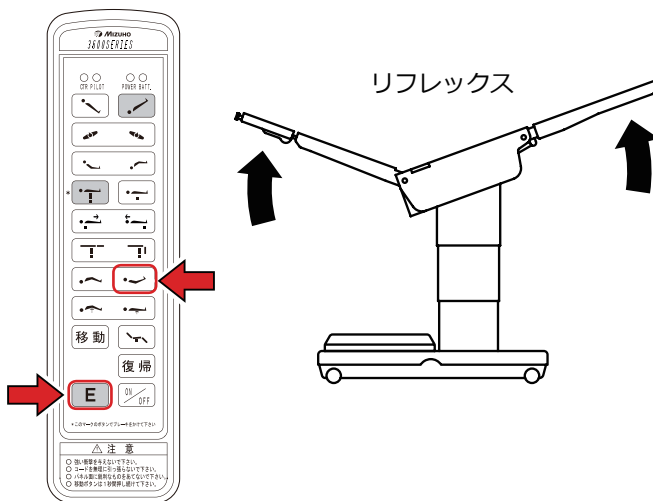
背板が下に屈折および腰板が縦転頭上がりの位置になります。



■ リフレックスにする

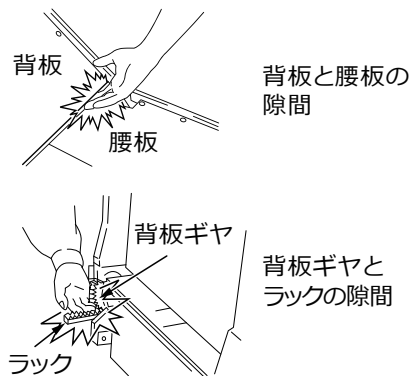
- ① **E** を押しながら  を押します。

背板が上に屈折および腰板が縦転頭下がりの位置になります。



警告

作動中、次の隙間部分に手を入れないでください。
けがのおそれがあります。

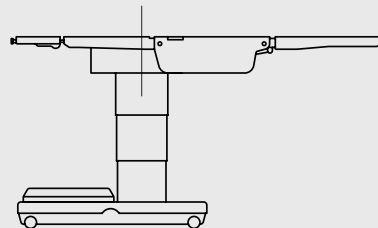


補足

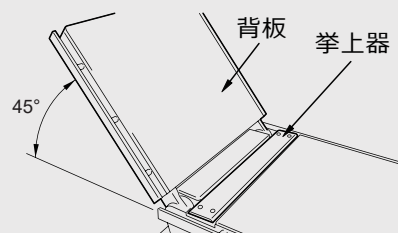
制限

- テーブルトップ中点が、中点位置より脚側ヘスライドした状態では、フレックスは作動せずブザーが鳴ります。テーブルトップを中点位置から頭側ヘスライドすると、背板は下がります。

中点位置



- 挙上器が上昇した状態では、リフレックスは背板が 45 度屈折した位置で停止します。挙上器を下まで下げると背板は最大 90 度まで屈折します。

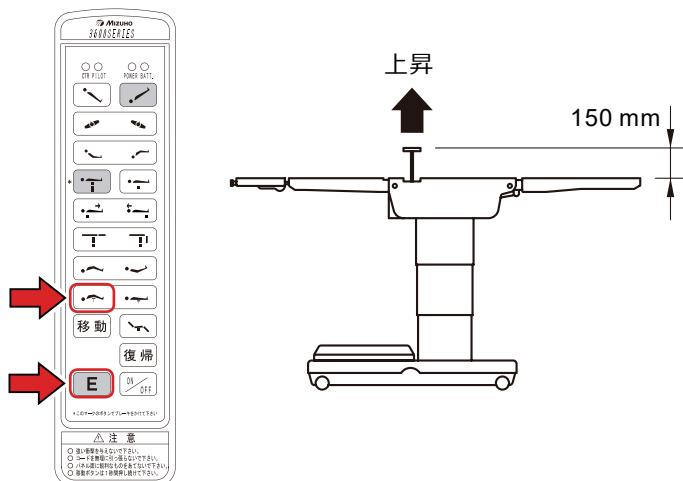




拳上器の高さを変える

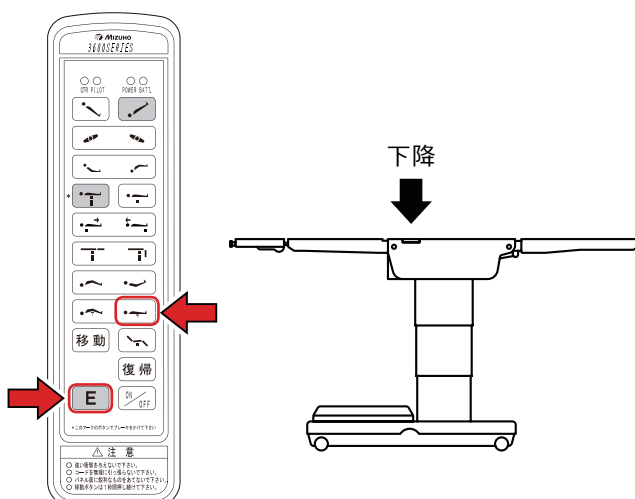
■ 拳上器を上げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
拳上器が上昇します。



■ 拳上器を下げる

- ① **E** を押しながら  を押します。
拳上器が下降します。

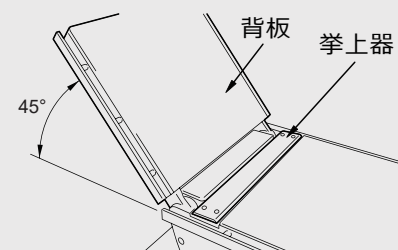


補足

- 最高上昇位置は、テーブルトップ上面から 150 mm です。
- 最低下降位置は、テーブルトップ上面と同じ高さです。

制限

- 背板が水平位置より 45 度以上、上がった状態では、拳上器は上昇せずブザーが鳴ります。背板を 45 度より下へ下げると、拳上器は上昇します。



- リフレックスポジションで背板の角度が 45 度以上では、拳上器は上昇せずブザーが鳴ります。背板を 45 度より下へ下げると拳上器は上昇します。
- ビーチチェアポジションで背板の角度が 45 度以上では、拳上器は上昇せずブザーが鳴ります。背板を 45 度より下へ下げると拳上器は上昇します。

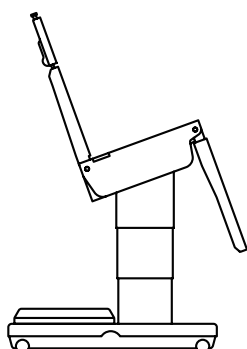
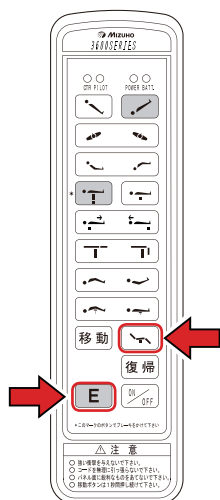


ビーチチェア

■ ビーチチェアにする

- ① **E** を押しながらか  を押します。

テーブルトップが図のように、ビーチチェアポジションになります。



警告

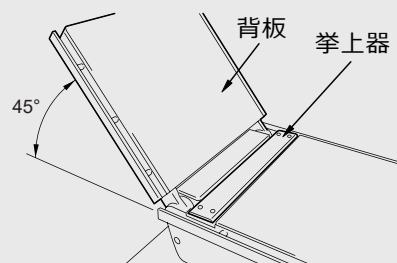
作動中、次の隙間部分に手を入れないでください。
けがのおそれがあります。



補足

制限

- 挙上器が上昇した状態では、ビーチチェアポジションは背板が 45 度屈折した位置で停止します。挙上器を下まで下げると背板は最大 90 度まで屈折します。



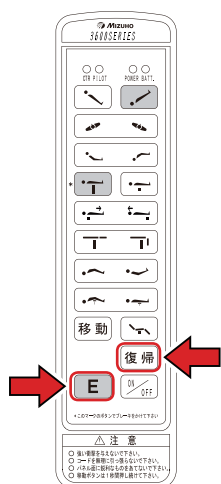


自動水平復帰

■ テーブルトップを水平位置に戻す

- ① **E** を押しながら **復帰** を押します。

縦転・横転・背板屈折・フレックス・脚板屈折・ビーチチェアおよび挙上器が作動して、テーブルトップが水平位置に戻ります。



補足

昇降・スライドおよびブレーキの機能は作動しません。



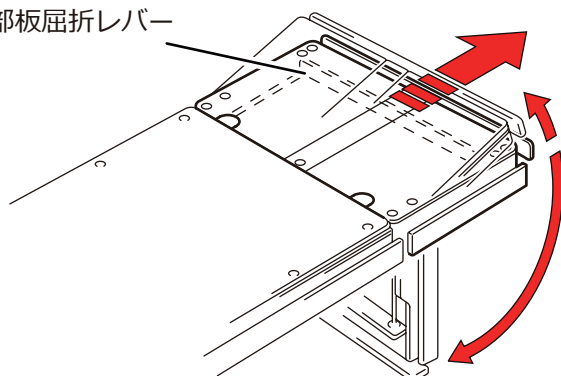
頭部板の調整

頭部板は 15 度区分で、上に 4 段（最大 60 度）、下に 6 段（最大 90 度）屈折します。また、取り外すことができます。

■ 屈折させる

頭部板屈折レバーを頭部側に向けて引きます。頭部板が上下に屈折します。レバーを離すと頭部板はその位置で固定します。

頭部板屈折レバー



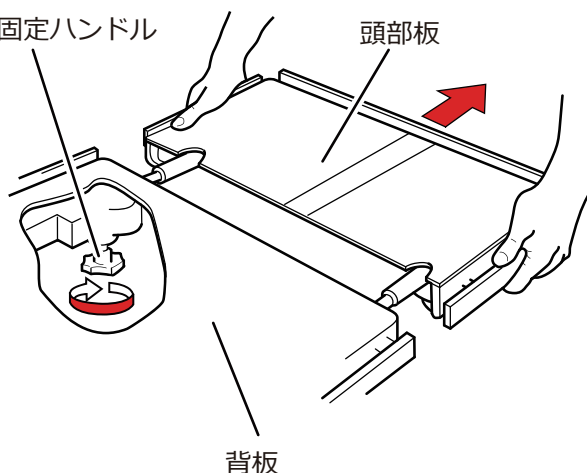
■ 取り外す

- ① 背板または脚板下部の 2 個の頭部板固定ハンドルをゆるめます（図は背板）。
- ② 頭部板の両脇をしっかりと持って、頭部板を真っ直ぐに引き出します。

頭部板固定ハンドル

頭部板

背板



警告

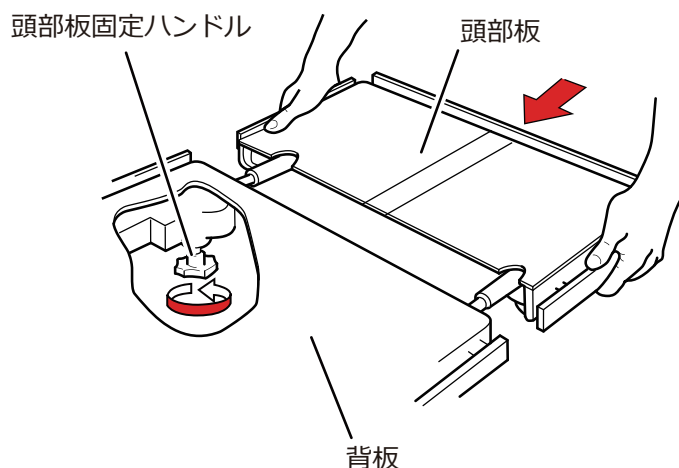
- 頭部板固定ハンドルは必ず締めてください。
頭部板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- 頭部板重量は 7 kg あるため取扱いに注意してください。
落下して破損・けがをするおそれがあります。



頭部板の調整

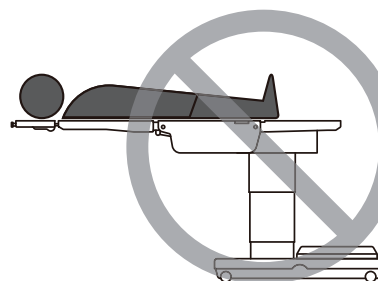
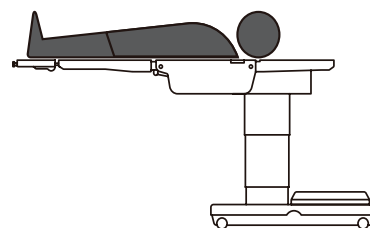
■ 取り付ける

- ① 頭部板の両脇をしっかり持って、頭部板の差込軸を背板または脚板の差込孔に合わせて挿入します。
- ② 頭部板が完全に挿入されたのを確認して左右の頭部板固定ハンドルを締めます（図は背板に挿入）。



警告

- 頭部板固定ハンドルは必ず締めてください。頭部板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- 頭部板を脚板先端に取り付けるときは、脚部延長以外の目的には使用しないでください。
- 患者は正しい向きに乗せてください。患者を逆向きに乗せると転倒するおそれがあります。



注意

- 頭部板は、背板または脚板に完全に差し込んでください。完全に差し込まずに使用すると、破損するおそれがあります。
- 下降および縦転頭上げを作動するとき、脚板下の機器等の有無を確認してください。脚板が機器等に接触して無理な力が加わると、脚板差込軸が破損するおそれがあります。

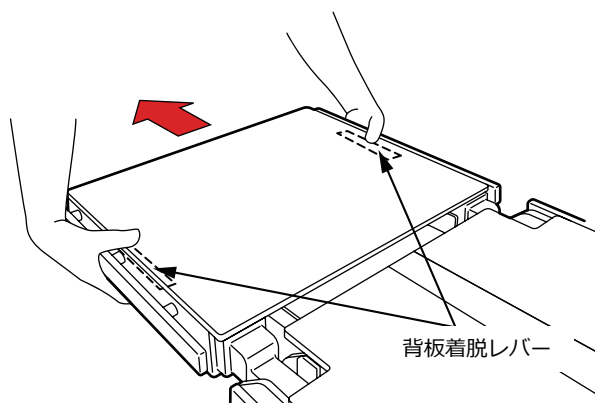


背板の調整

背板は取り外すことができます。

■ 取り外す

- ① 背板下部の背板着脱レバーを左右同時に引き上げます。
- ② 背板着脱レバーを引き上げたまま背板をしっかり持って、背板を真っ直ぐに引き出します。



警告

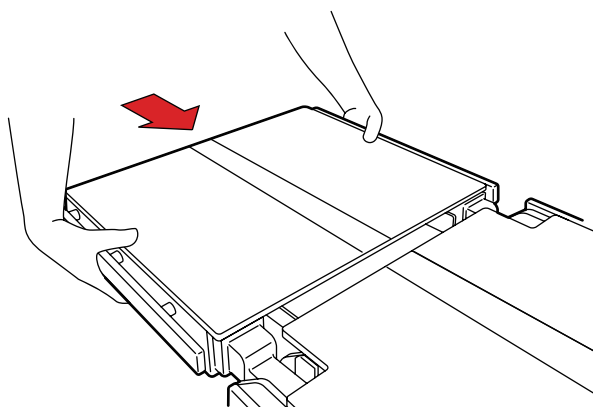
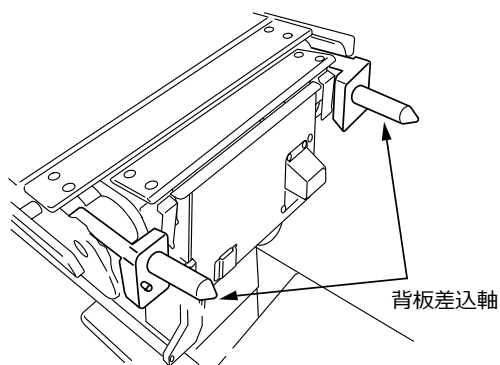
- 背板が確実に差し込まれていることを必ず確認してください。
背板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- 背板は重量が 10 kg あるため取扱いに注意してください。
落下して破損・けがをするおそれがあります。
- 頭部板を装着した状態で背板を取り外さないでください。
落下してけがをするおそれがあります。



背板の調整

■ 取り付ける

- ① 背板差込軸が水平位置であることを確認して、背板を差し込みます。



- ② 背板を引いて、背板が確実に差し込まれていることを確認します。

警告

- 背板が確実に差し込まれていることを必ず確認してください。背板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- 背板重量は 10 kg のため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。

補足

- 背板差込軸にはオプションの専用アクセサリを取り付けることができます。詳細は専用アクセサリの添付文書または取扱説明書を参照してください。
- 背板を外した状態で背板を操作すると、背板差込軸の左右位置にずれが生じて、背板が取り付けられません。背板差込軸の左右位置がずれた場合は、次ページに記載されている手順に従い、背板を取り付けてください。

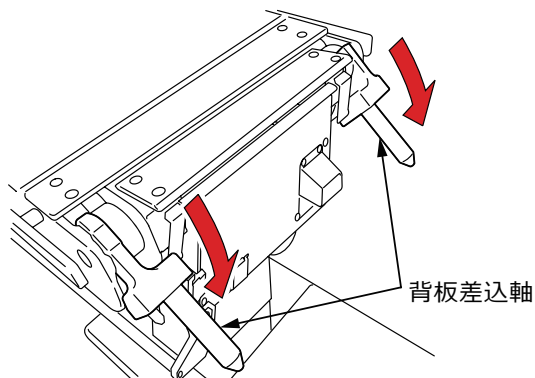


背板の調整

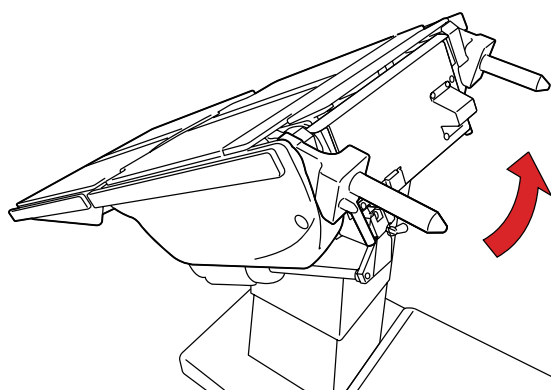
■ 取り付ける

背板差込軸がずれた場合の取り付け方法

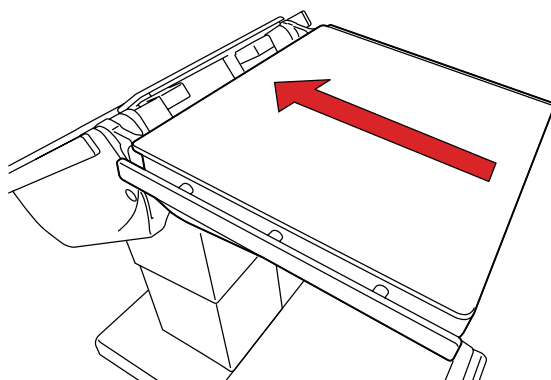
- ① 背板差込軸が停止するまで、**E** を押しながら  を押します。



- ② テーブルトップが停止するまで、操作ボックスの **E** を押しながら  を押します。



- ③ 背板差込軸に背板を差し込みます。



- ④ 背板を引いて、背板が確実に差し込まれていることを確認します。

警告

- 背板が確実に差し込まれていることを必ず確認してください。背板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- 背板は重量が 10 kg あるため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。

補足

背板差込軸にはオプションの専用アクセサリーを取り付けることができます。詳細は専用アクセサリーの添付文書または取扱説明書を参照してください。

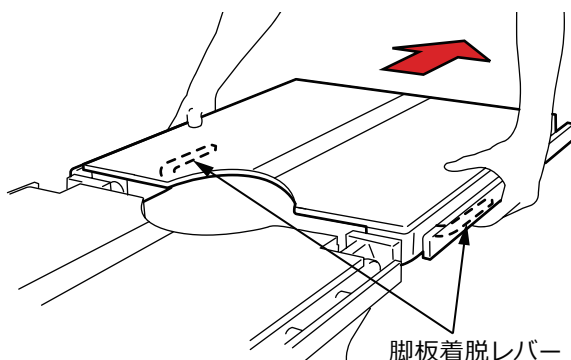


脚板の調整

脚板は取り外すことができます。

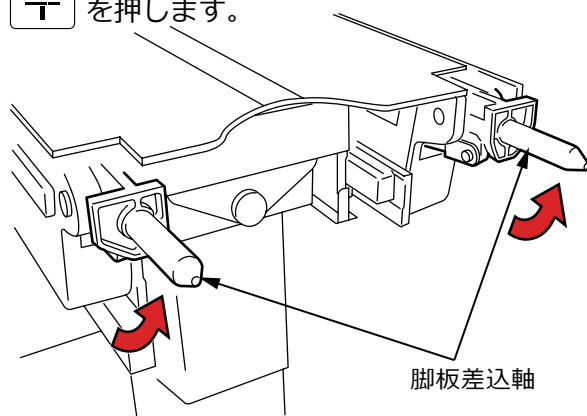
■ 取り外す

- ① 脚板をしっかり持って、脚板着脱レバーを押しながら脚板を引き抜きます。

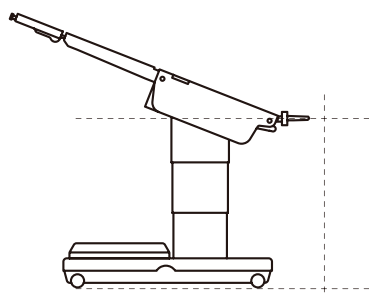


■ 取り付ける

- ① 脚板差込軸が停止するまで、**E** を押しながら **T** を押します。

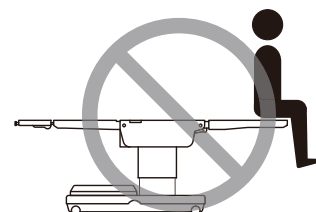


- ② 脚板差込軸の角度が床面と水平になるまで、**E** を押しながら  を押してテーブルトップを傾けます。



警告

- 脚板先端に座ったり寄りかかったりしないでください。転倒・けがのおそれがあります。

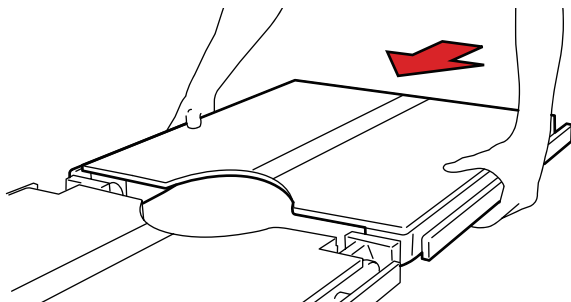


- 脚板を取り付けた後は、脚板を前後に揺すって脚板が完全に差し込まれていることを必ず確認してください。脚板が動くと患者に障害がおきるおそれがあります。
- 脚板は重量が11 kgあるため取扱いに注意してください。落下して破損・けがをするおそれがあります。

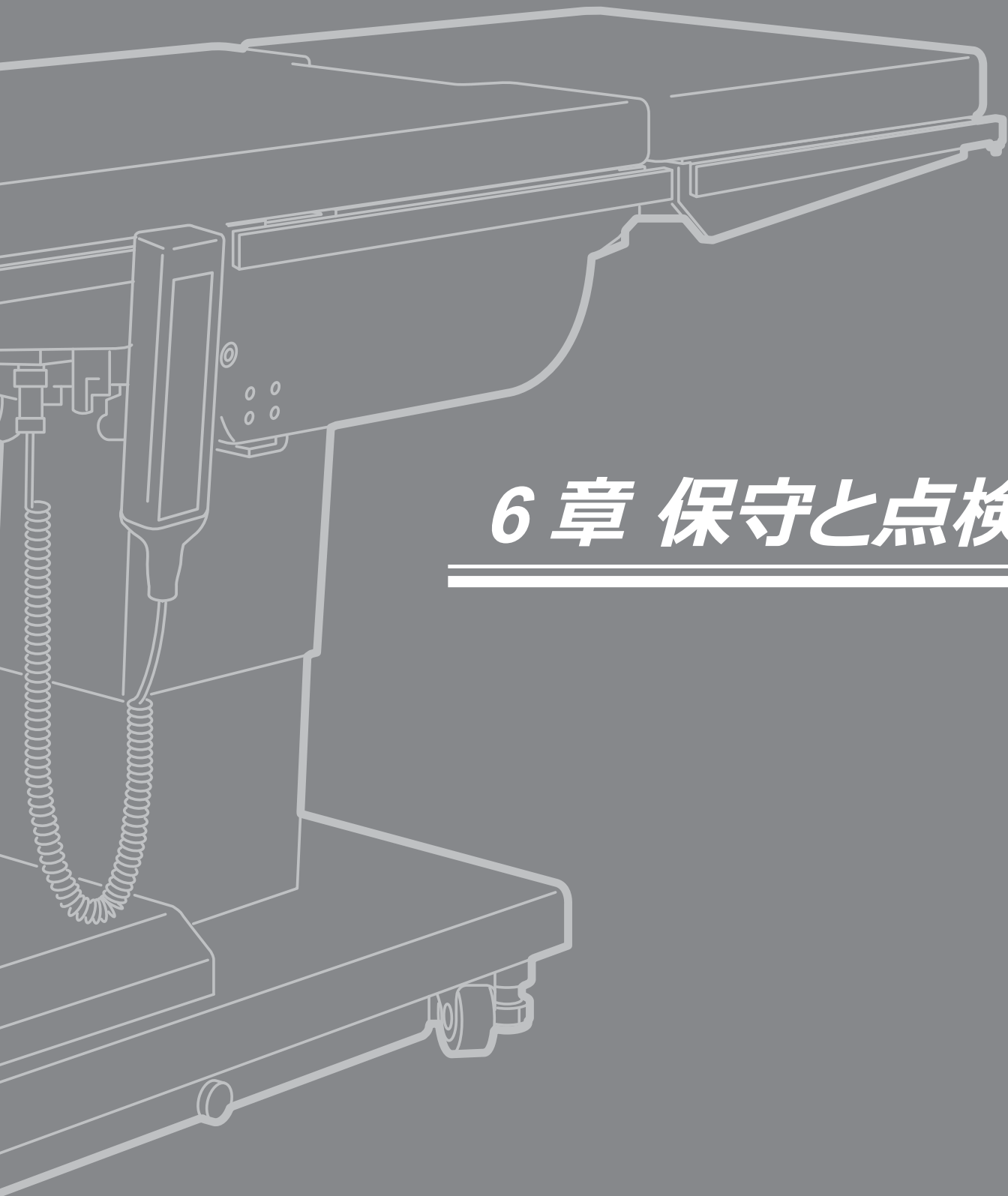


脚板の調整

- ③ 脚板をしっかり持って、脚板の差込軸を差込孔に合わせて挿入します。



- ④ 脚板を引いて、脚板が確実に差し込まれていることを確認します。



6 章 保守と点検

使用前・使用後の点検

下記の事項を点検して、異常があればご購入店または弊社まで修理を依頼してください。



警告

手術台の使用前および使用後は必ず点検事項を確認し、異常がある場合はご購入店または弊社に修理を依頼してください。手術に支障が生じるおそれがあります。

マットレス

使用前

- すべてのマットレスに破損がないか。

使用後

- すべてのマットレスに破損または汚れがないか。

テーブルトップのガタ

使用前

- 背板両端を持って上下左右に揺すったときにガタがないか。

テーブル板

使用前

- すべてのテーブル板に破損がないか。

使用後

- すべてのテーブル板に破損または汚れがないか。

操作ボックス

使用前

- 操作ボックスのスイッチを押して、すべての機能が正常に作動するか。

油漏れ

使用前

- 床またはベース表面に作動油が付着していないか。

使用後

- 床またはベース表面に作動油が付着していないか。

電源コードおよびプラグ

使用前

- 導線の露出またはプラグの破損がないか。

予備スイッチ

使用前

- 予備スイッチを押して、全ての機能が正常に作動するか。

バッテリー

使用前

- バッテリーは充電された状態か。

電源スイッチ

使用前

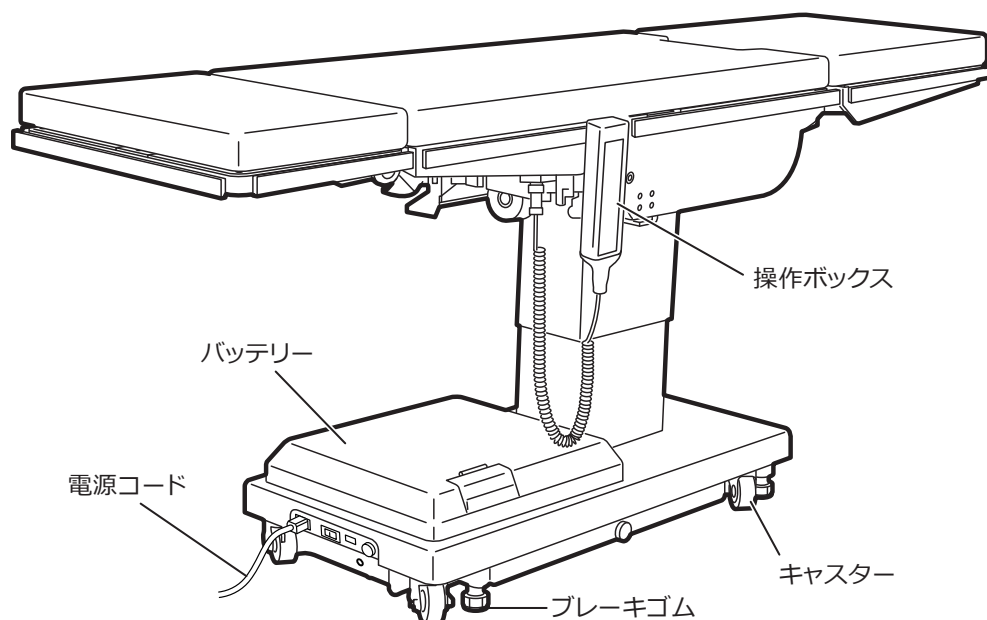
- 電源スイッチを ON にして、パワーランプが点灯するか。

定期交換部品

安全に使用していただくために、定期的に交換することを弊社で設定しております。

交換時期は目安です。使用の状況または使用頻度によっては、早期に部品交換が必要となる場合があります。

交換にあたっては、ご購入店または弊社に依頼してください。



部品名	交換時期
バッテリー	2 年
操作ボックス	4 ～ 6 年
キャスター	5 ～ 7 年
ブレーキゴム	3 ～ 5 年
電源コード	5 ～ 7 年

※上記は目安の期間です。使用条件により交換時期が変わります。

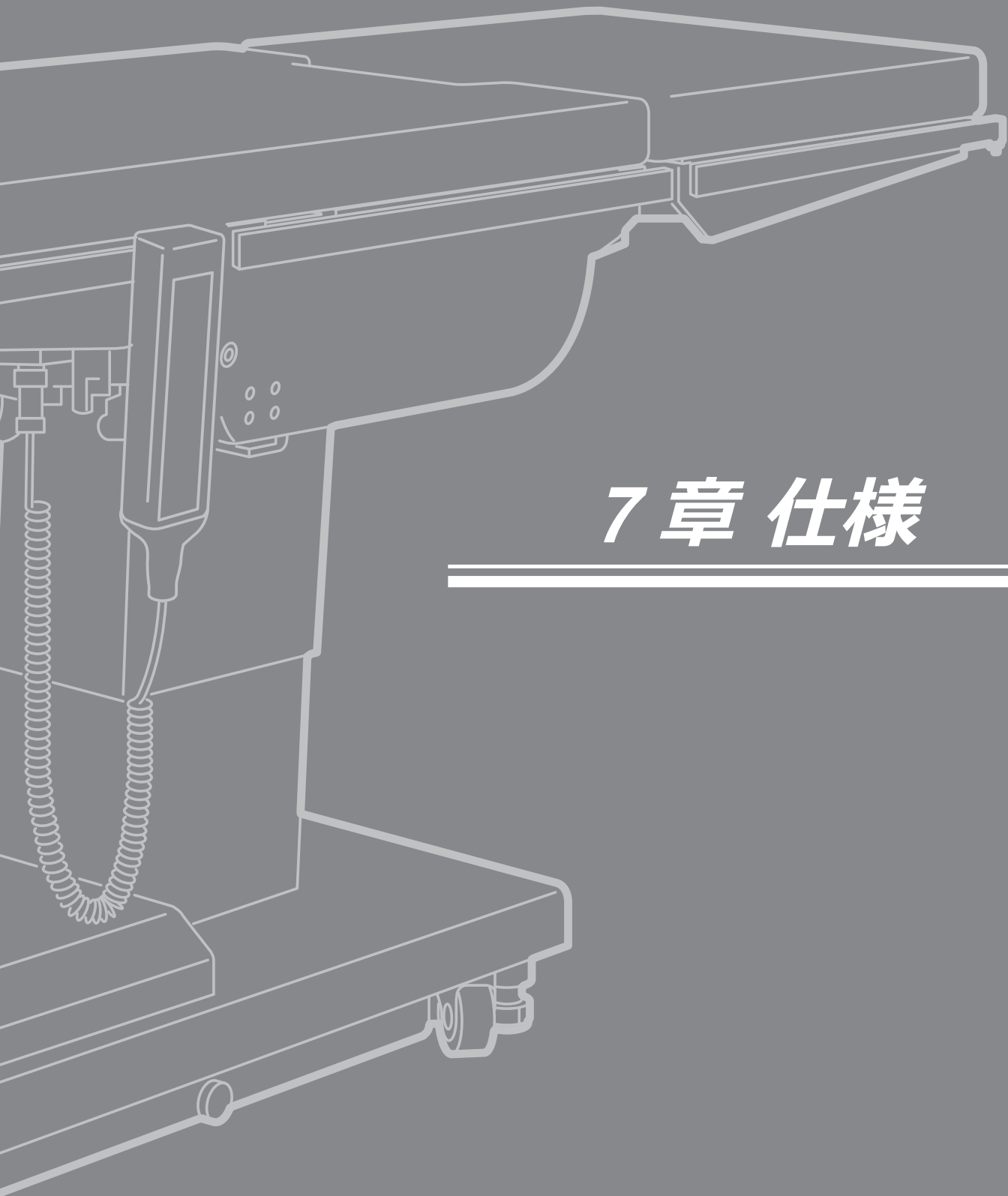
ソフトウェアのバージョン情報

手術台に搭載されている制御ソフトウェアのバージョン情報は、基板に実装されているマイクロコンピュータ上に直接貼付されているラベルで確認することが可能です。



注意

ソフトウェア・バージョン情報は、主にサービスマン、メンテナスマンが必要に応じてアクセスします。確認するためにはベースカバーを開け、制御基板にアクセスする必要があります。



7 章 仕様

仕様表

販売名		電動油圧手術台 MOT-3602	
分類	製造販売届出番号		13B1X00306N10208
	類別		機械器具1 手術台及び治療台
	一般的名称・JMDN コード		汎用電動式手術台 36867020
	クラス分類		一般医療機器 特定保守管理医療機器
商品名		電動油圧手術台 MOT-3602	
電動	昇降範囲	最高位	1100 mm
		最低位	620 mm
	縦転範囲	頭下がり	30°
		頭上がり	30°
	横転角度	右下がり	30°
		左下がり	30°
	背板屈折角度	上がり	90°
		下がり	40°
	スライド量：注 1	頭方向	245 mm
		脚方向	335 mm
	脚板屈折角度	上がり	15°
		下がり	100°
	フレックス		フレックス／リフレックス
	挙上器	最高位	150 mm
	自動水平復帰		縦転／横転／背板屈折／脚板屈折／フレックス／挙上器／ビーチチェア
	ブレーキ		固定／解除
	その他		ビーチチェア
手動	操作機器	操作ボックス	昇降、縦転、横転、背板屈折、脚板屈折、スライド、フレックス、挙上器、ビーチチェア、水平復帰、ブレーキ、Eスイッチ、ON/OFF
		予備スイッチ	昇降、縦転、横転、背板屈折、脚板屈折、挙上板下降、ブレーキ
		フットスイッチ：注 9	昇降、縦転、横転
		緊急停止スイッチ	停止
電気的定格	頭部板屈折角度	上がり	60°
		下がり	90°
	取り外し		頭部板／背板／脚板
寸法	その他		非常用ブレーキ解除ハンドル
	JIS T0601-1 による分類		クラス I 機器（内部電源機器：注2）／B形装着部／IPX4
	定格電源電圧		AC100-240V
	定格電源周波数		50-60Hz
	バッテリー電源		DC24V
	電源入力		400VA
	操作電圧		DC24V
	連続作動時間		3 分 ON、7 分 OFF：注 3
質量	その他		除細動器からの回復 5 秒以内
	テーブルトップ寸法		2004 mm（長）× 500 mm（幅）：注 4
	ベース寸法		1033 mm（長）× 483 mm（幅）：注 5
	質量		358kg
許容患者体重：注10		昇降：450kg／昇降以外の作動：360kg	
通過可能高さ・幅		高さ：10mm／幅：80mm	

設置環境	周囲温度範囲	10℃～40℃：注 8
	相対湿度範囲	30%～75%：注 8
	気圧範囲	700hPa～1060hPa：注 8
	その他	標高 3000m 以下で使用：注 8
輸送および 保管条件	周囲温度範囲	－10℃～50℃：注 6
	相対湿度範囲	10%～85%（結露なし）
	気圧範囲	700hPa～1060hPa：注 6
	耐用年数	指定した保守点検および適切な保管をした場合 10年：注 7

注 1：中点位置から

注 2：バッテリー電源使用時

注 3：手術台の連続作動時間と休息時間

注 4：サイドレール部を除く

注 5：概略寸法

注 6：弊社基準

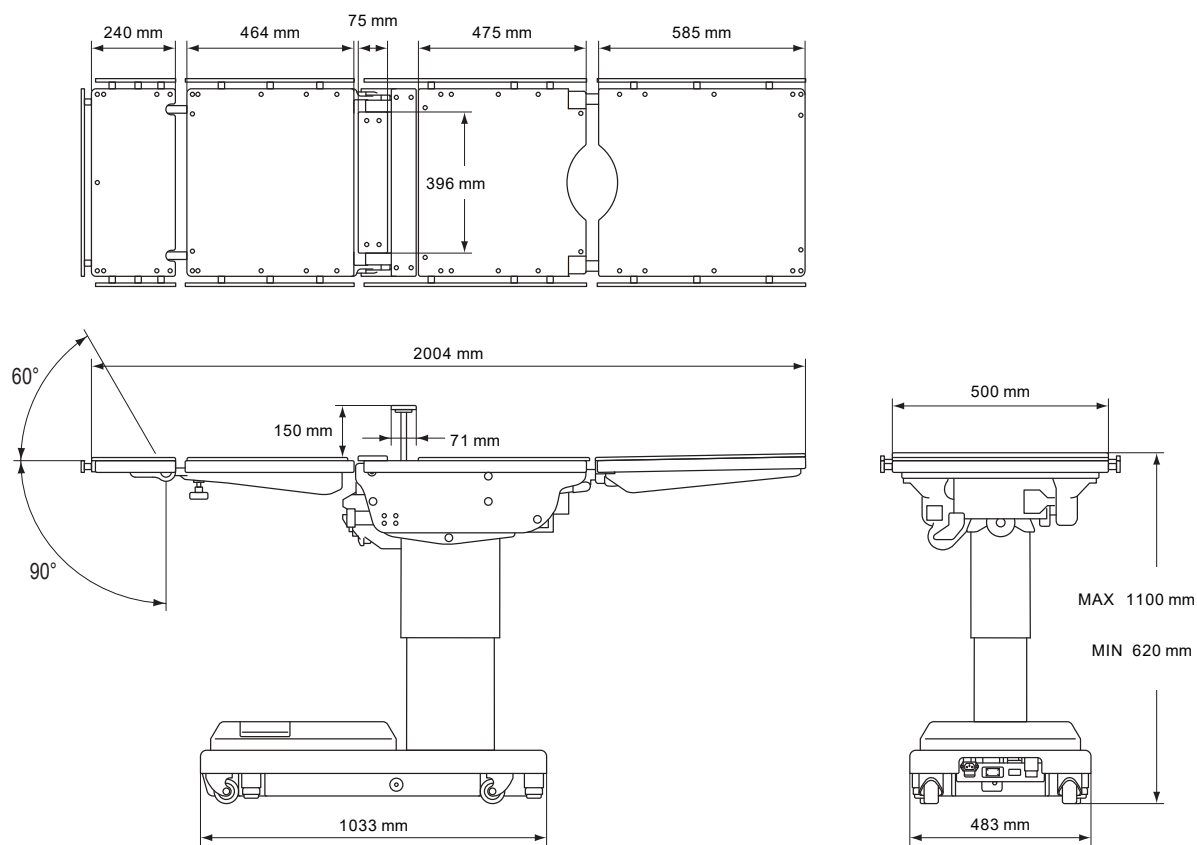
注 7：自己認証（弊社データ）による

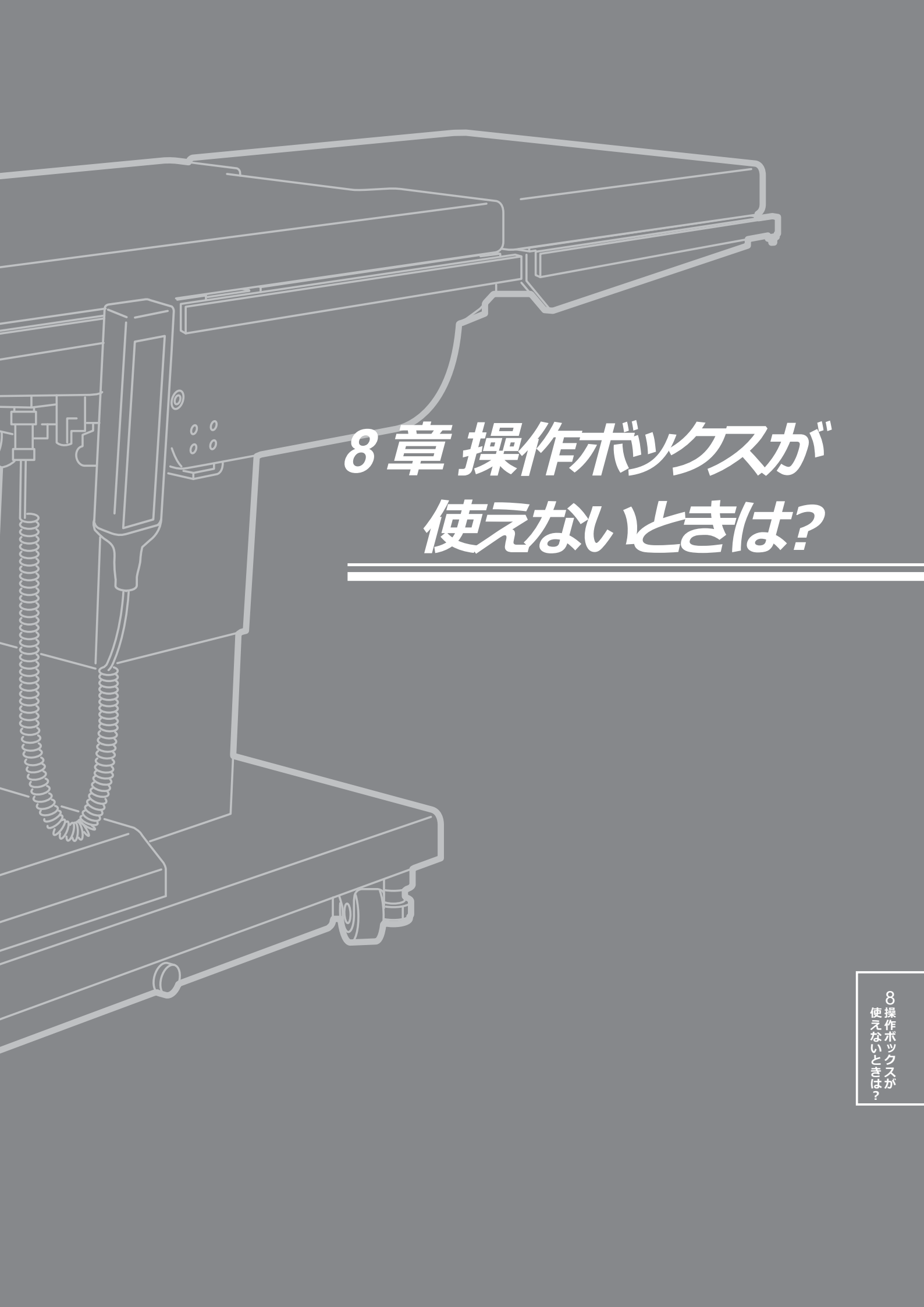
注 8：JIS-T0601-1 医用電気機器－安全に関する一般要求事項：2017（環境条件）

注 9：オプション

注 10：患者体重およびアクセサリーの合計

外觀図



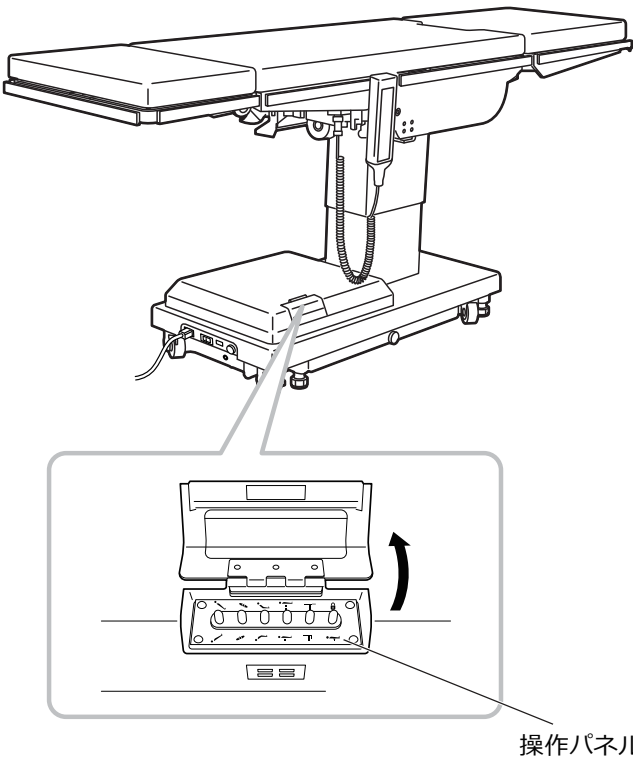


8章 操作ボックスが 使えないときは?

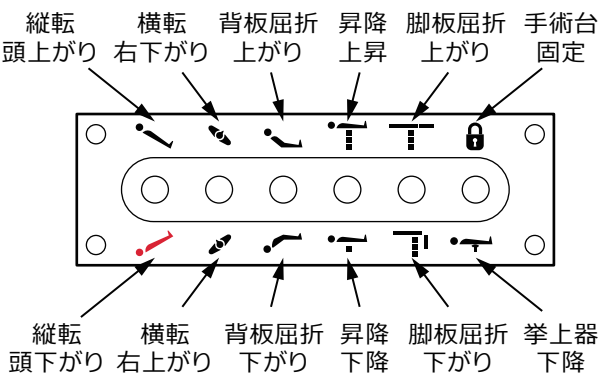
手術台を操作する

■ 予備スイッチ

① 予備スイッチのフタを開けます。



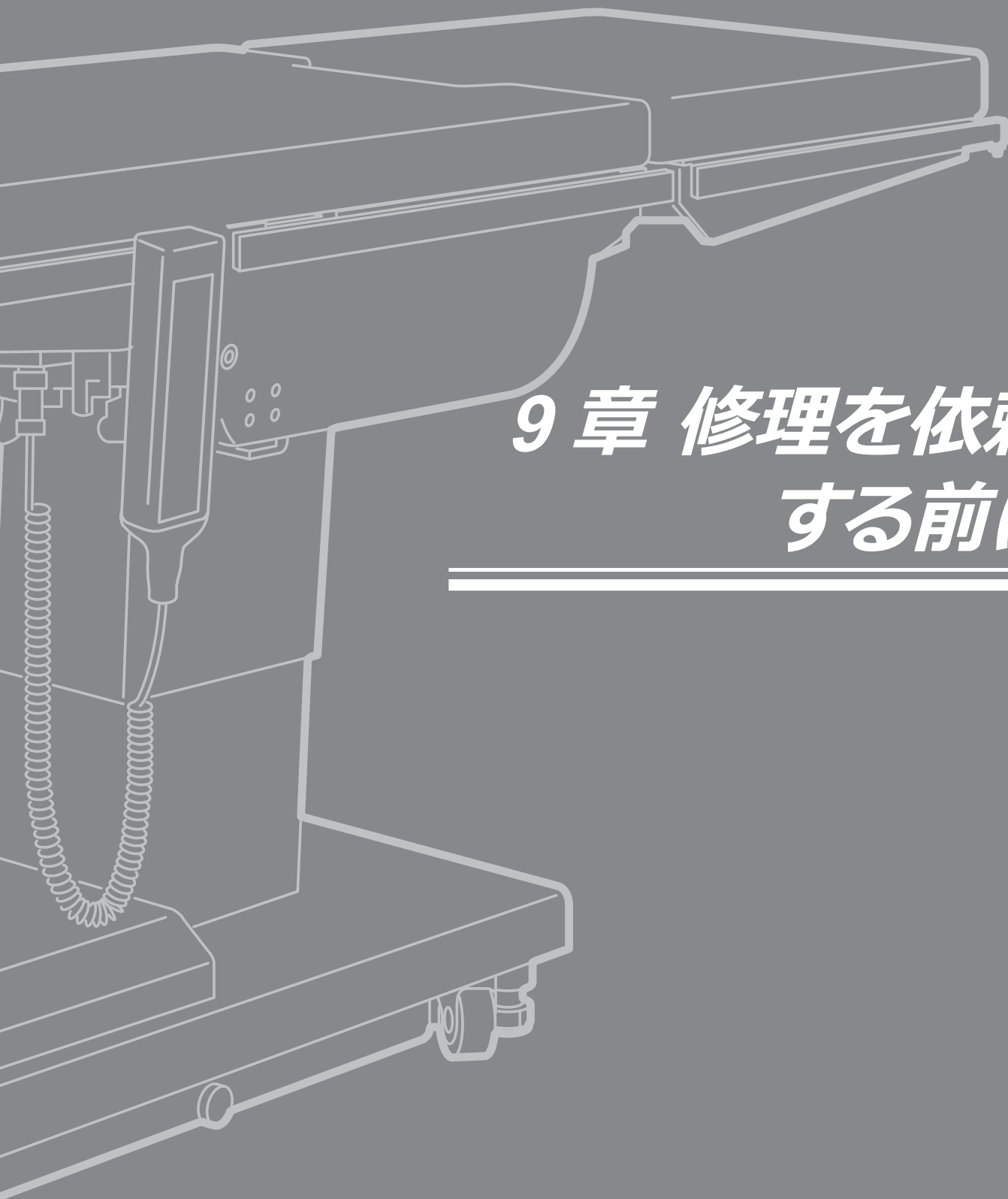
② 操作パネルのスイッチを動かしたい方向に押しま
す。スイッチを押している間作動します。最大角度
になると停止します。



! 注意

- 予備スイッチは緊急時のみ使用してください。操作ボックスと異なり安全装置が働きません。
- 予備スイッチを操作するときは、常に手術台の動きを監視してください。
- 他の部品と接触したときは、直ちに操作を中止してください。破損の原因となります。

8 操作ボックスが
使えないときは？



9 章 修理を依頼 する前に

修理を依頼する前に

■ 故障でない場合

以下の状態は故障ではない場合があります。修理を依頼する前にもう一度調べてください。

状態	考えられる原因	対策
電源が入らない	1. 操作ボックスのコネクタを完全に差し込んでいない 2. バッテリーの容量が低下している	1. コネクタを完全に差し込んでください (→ P23) 2. バッテリーを充電してください (→ P21)
操作ボックスの機能スイッチを押しても作動しない	1. 操作ボックスのコネクタを完全に差し込んでいない 2. 機能スイッチと同時にEスイッチを押していない 3. モーターがオーバーヒートしている	1. コネクタを完全に差し込んでください (→ P23) 2. Eスイッチを押しながら機能スイッチを押してください (→ P28 ~ 41) 3. 約 60分待ってから操作してください (→ P17)
操作ボックスのブレーキスイッチを押しても作動しない	1. 非常用ブレーキ解除ハンドルがUNLOCKの状態 2. 非常用ブレーキ解除ハンドルでブレーキを解除した後、操作ボックスでブレーキ解除を操作していない	1. 非常用ブレーキ解除ハンドルをLOCKにしてください (→ P29) 2. 操作ボックスでブレーキ解除操作をしてください (→ P29)
背板が水平位置より下に屈折できない	1. テーブルトップが中点位置より脚側にスライドしている	1. テーブルトップ中点を中点位置より頭側へスライドしてください (→ P34)
テーブルトップが中点位置より脚側にスライドできない	1. 背板が水平位置より下にある	1. 背板を水平位置より上に上げてください (→ P32)
リフレックスが作動しない	1. テーブルトップが中点位置より脚側にスライドしている	1. テーブルトップ中点を中点位置より頭側へスライドしてください (→ P34)
脚板が水平位置から45度までしか下がらない	1. テーブルトップが中点位置より頭側にスライドしている	1. テーブルトップを中点位置より脚側へスライドしてください (→ P34)
脚板が水平位置から下へ下がらない	1. テーブルトップの位置が頭側最大値から脚側へ50mmまでの位置にある	1. テーブルトップの位置を頭側最大値から脚側へ50mm以上スライドしてください (→ P34)
拳上器が上昇しない	1. 背板の位置が水平位置より上に45度以上の位置にある 2. リフレックスで背板が上に45度以上屈折している 3. ビーチチェアで背板が上に45度以上屈折している	1. 背板の位置を45度より下まで下げてください (→ P32) 2. 背板の位置を45度より下まで下げてください (→ P32) 3. 背板の位置を45度より下まで下げてください (→ P32)

背板が 45 度 までしか上がら ない	1. 挙上器が上昇している	1. 挙上器を最低位まで下げてください (→ P39)
リフレックスで 背板が 45 度 までしか 上がらない	1. 挙上器が上昇している	1. 挙上器を最低位まで下げてください (→ P39)
ビーチチェアで 背板が 45 度 までしか 上がらない	1. 挙上器が上昇している	1. 挙上器を最低位まで下げてください (→ P39)

上記の対策を行っても状態が改善されない場合は、ご購入店または弊社まで修理を依頼してください。

故障時の対応

手術台および操作ボックスが故障したときは、以下の処置をしてください。

- ① 電源を切って、電源コードを医用コンセントから外します。
- ② 手術台本体に「故障」・「使用禁止」等の表示をします。

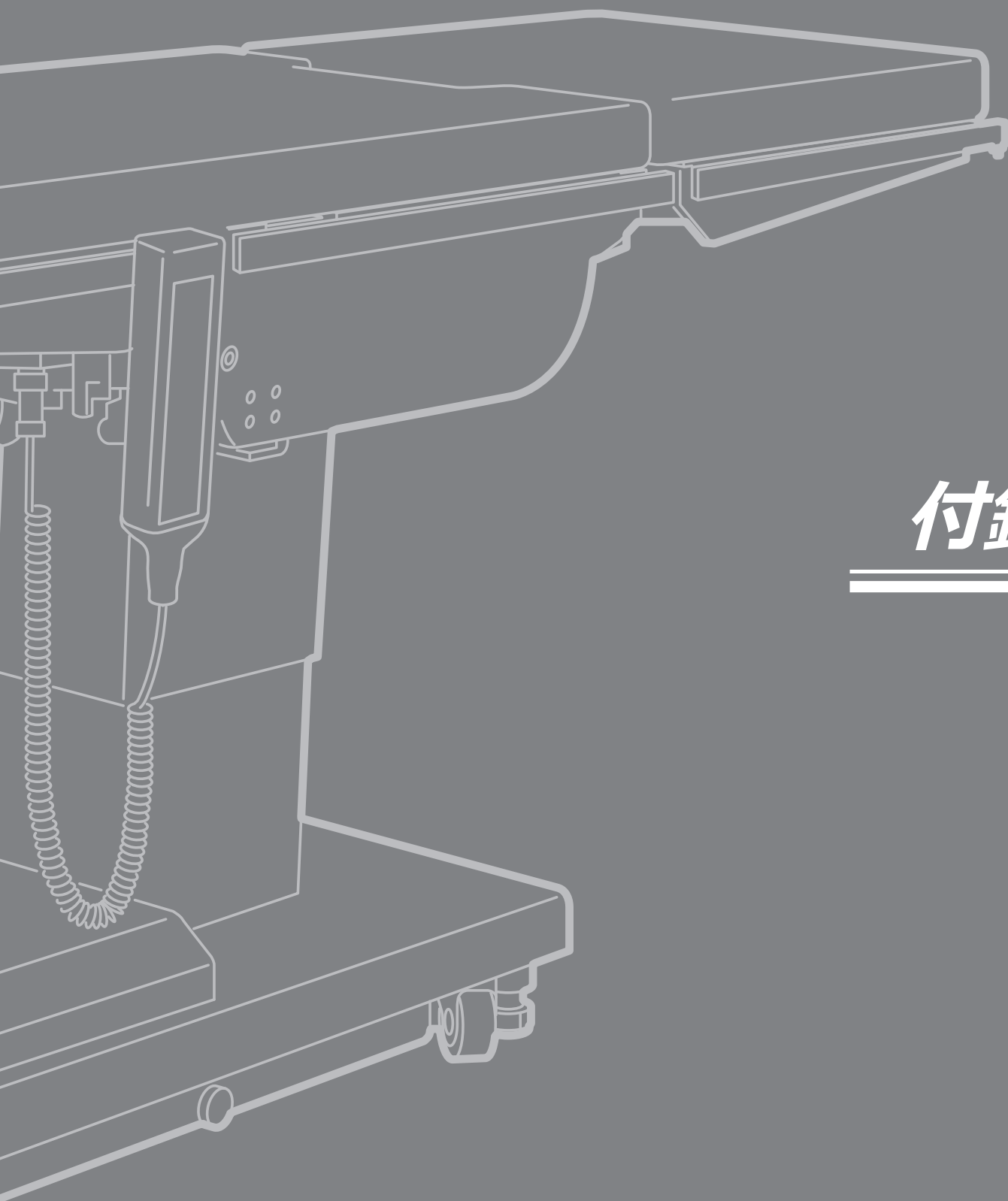


警告

- ・ 修理は弊社および弊社が認めた業者が行います。必ずご購入店または弊社へ修理を依頼してください。
- ・ 分解しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- ・ 感染防止のため、修理を依頼するときは必ず手術台の清掃および消毒をしてください。

業者による保守点検事項

本機を安全に使用するために、弊社および弊社が認めた業者による年 1 回の定期点検を実施してください。それ以外の業者による保守・点検は、有害事象の発生、性能・機能の低下を招くおそれがあります。定期点検を希望される場合は、ご購入店または弊社にお問い合わせください。



付録

EMC（電磁両立性）について

本書で示している EMC 情報に従って設置、使用をお願いします。



- 弊社指定の付属品以外は使用しないでください。
エミッションの増加またはイミュニティの低下を招くおそれがあります。
- 他の機器と隣接または積み重ねて使用しないでください。
電磁干渉により正常に作動しないおそれがあります。
- 併用する他の医用電子機器（特に生命維持装置）は、予め電磁的干渉による誤作動が起きないことを確認の上使用してください。
電磁干渉により正常に作動しないおそれがあります。

電磁放射に関するガイドラインおよびメーカー適合宣言		
MOT-3602は、以下に指定した電磁的環境内での使用を意図している。MOT-3602の顧客または使用者は、このような環境内で使用されることを確認することが望ましい。		
電磁的干渉測定	適合性	電磁的環境 – ガイドライン
高周波放出 IEC 61000-3-2	クラス A	MOT-3602は、住宅環境および住宅環境の建物に電力を供給する公共の低電圧配電系に直接接続された施設を除く、すべての施設での使用に適している。
電圧変動／ フリッカによる放出 IEC 61000-3-3	適合	
RF放射 CISPR11	クラス A	
RF放射 CISPR11	グループ 1	MOT-3602は、内部機能のためにのみRFエネルギーを使用している。したがって、近傍の電子機器に対して何らかの干渉を生じさせる可能性は非常に低いものと考えられる。

電磁環境耐性に関するガイドラインおよびメーカー適合宣言			
MOT-3602は、以下に指定した電磁的環境内での使用を意図している。MOT-3602の顧客または使用者は、このような環境内で使用されることを確認することが望ましい。			
電磁環境耐性検査	IEC 60601 検査レベル	適合性レベル	電磁的環境－ガイドライン
静電気放電 (ESD) IEC 61000-4-2	± 8 kV 接触放電 ± 2 ; 4 ; 8 ; 15 kV 気中放電	± 8 kV 接触放電 ± 2 ; 4 ; 8 ; 15 kV 気中放電	床は、木材、コンクリートまたはセラミックタイルであることが望ましい。 床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は少なくとも30%であることが望ましい。
高速過渡電気障害／バースト IEC 61000-4-4	± 2 kV 電源ライン ± 1 kV 入出力ライン	± 2 kV 電源ライン ± 1 kV 入出力ライン	電源電圧の品質は、標準的な商用または病院環境と同等であることが望ましい。
サージ電圧 IEC 61000-4-5	±0.5 ; 1 kV ノーマルモード電圧 ±0.5 ; 1 ; 2 kV コモンモード電圧	±0.5 ; 1 kV ノーマルモード電圧 ±0.5 ; 1 ; 2 kV コモンモード電圧	電源電圧の品質は、標準的な商用または病院環境と同等であることが望ましい。
電圧の降下、短時間停電および電源電圧の変動 IEC 61000-4-11	0 % U_T 0.5 サイクル 0 % U_T 1 サイクル 70 % U_T 25 / 30 サイクル 0 % U_T 250 / 300 サイクル	0 % U_T 0.5 サイクル 0 % U_T 1 サイクル 70 % U_T 25 / 30 サイクル 0 % U_T 250 / 300 サイクル	電源電圧の品質は、標準的な商用または病院環境と同等であることが望ましい。 MOT-3602の顧客または使用者が主電源の遮断時にも操作を継続する必要がある場合は、MOT-3602に無停電電源装置またはバッテリーから電源を供給することが望ましい。
電源周波数 (50/60 Hz) 磁界 IEC 61000-4-8	30 A / m	30 A / m	電源周波数磁界は、標準的な商用または病院環境における一般的な場所と同レベルの特性を持つことが望ましい。
注記： U_T は、検査レベル適用前の交流電源電圧である。			

電磁環境耐性に関するガイドラインおよびメーカー適合宣言（続き）				
電磁環境耐性検査	IEC 60601 検査レベル	適合性レベル	電磁的環境－ガイドライン	
放射RFにより誘導された伝導性妨害 IEC 61000-4-6	150 kHz ～ 80 MHz 3 V ISM周波数帯 6 V	150 kHz ～ 80 MHz 3 V ISM周波数帯 6 V	携帯形および移動形RF通信機器（アンテナまたはケーブルを含む無線機器）は、MOT-3602のいかなる部分に対しても、30cm（または12インチ）の推奨安全距離より近づけて使用しないことが望ましい。	
放射 RFによる干渉 IEC 61000-4-3	80 MHz ～ 2.7 GHz 3 V/m	80 MHz ～ 2.7 GHz 3 V/m	電磁界の現地調査によって決定する固定RF送信機からの電界強度は、各周波数範囲における適合性レベル 3 V/mよりも低いことが望ましい。 以下の記号を表示している機器の近傍では干渉が生じる可能性がある。 	
	ワイヤレス通信 周波数帯	ワイヤレス通信 周波数帯		
	V/m MHz	V/m MHz		
	27 385	27 385		
	28 450	28 450		
	9 710	9 710		
	9 745	9 745		
	9 780	9 780		
	28 810	28 810		
	28 870	28 870		
	28 930	28 930		
	28 1720	28 1720		
	28 1845	28 1845		
	28 1970	28 1970		
	28 2450	28 2450		
	9 5240	9 5240		
9 5500	9 5500			
9 5785	9 5785			
注記：このガイドラインはすべての状況に対して適用するものではない。建築物・物・人からの吸収および反射は電磁波の伝搬に影響する。				
例えば、無線（携帯／コードレス）電話および移動式地上無線の基地局、アマチュア無線、AM・FM ラジオ放送およびTV 放送のような固定送信機からの電界強度を、正確に理論的に予測をすることはできない。固定RF送信機による電磁的環境を確認するためには、電磁界の現地調査を考慮することが望ましい。MOT-3602を使用する場所において測定した電界強度が上記の適用するRF 適合性レベルを超える場合は、MOT-3602が正常に作動するかを検証するために監視することが望ましい。異常作動を確認した場合には、MOT-3602の向きを変える、または位置を動かすなどの追加対策が必要となる。				

改訂履歴

2014-01	REV.2	改訂
2014-06	REV.3	改訂
2015-05	REV.4	改訂
2015-12	REV.5	改訂
2019-04	Ver.6	改訂
2022-06-30	Ver.7	改訂

ミズホ株式会社

<https://www.mizuho.co.jp>

■ **本社** 〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-13
販売事業部 TEL 03-3815-3097 FAX 03-3813-5068

■営業拠点

北海道センター 〒060-0807 札幌市北区北7条西2-6 37山京ビル2F
TEL 011-716-4731 FAX 011-716-4803

東北センター 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-2 SK仙台ビル2F
TEL 022-227-1688 FAX 022-227-1698

新潟センター 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通七番町1230-7 ストークビル鏡橋6F
TEL 025-229-5458 FAX 025-222-4684

北関東センター 〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-13
TEL 03-3815-3193 FAX 03-3815-1280

東海センター 〒464-0075 名古屋市千種区内山3-17-4 スズシン第2ビル3F
TEL 052-732-7130 FAX 052-732-7131

関西センター 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-10-24 三共本町ビル7F
TEL 06-6444-3840 FAX 06-6444-3860

中国センター 〒730-0029 広島市中区三川町7-7 三川町パーキングビル13F
TEL 082-241-8826 FAX 082-241-8836

九州センター 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-1-1 ZENNO筑紫通ビル5F
TEL 092-431-5022 FAX 092-474-4483

■関東圏 販売網（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）

ミズホアーバン株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-29-3
TEL 03-3811-0350 FAX 03-3811-1880

■アフターサービスカスタマーセンター 〒285-0808 千葉県佐倉市太田2173-13

訪問修理受付 TEL 043-481-3367 FAX 043-481-3374
預り修理受付 TEL 043-481-3368 FAX 043-481-3375

■ミズホショールーム 〒285-0808 千葉県佐倉市太田2173-13

○ お問い合わせは営業担当までお願い致します。

■工場

千葉工場 〒285-0808 千葉県佐倉市太田2173-13
五泉工場 〒959-1821 新潟県五泉市赤海3631-14